



国家遺産としての国立公園

NATIONAL PARKS, NATIONAL LEGACY



第13巻第7号

<http://www.america.gov/publications/ejournals.html>

国際情報プログラム:

発行責任者	Jeremy F. Curtin
編集主幹	Jonathan Margolis

クリエイティブ・ディレクター	George Clack
編集長	Richard W. Huckaby
副編集長	Charlene Porter
制作	Susan L. Doner
制作補佐	Chloe D. Ellis
ウェブ制作	Janine Perry

原稿整理	Kathleen Hug
写真編集	Ann Monroe Jacobs
表紙デザイン	Min Yao
参考資料担当	Martin Manning

表紙: コロラド川は500~600万年をかけてアリゾナ州のグランドキャニオンを彫りあげた。この大峡谷の長さはほぼ450キロ、それを取り巻く国立公園の面積は5000平方キロ近くに達し、峡谷の縁から川までの距離は1800メートルを超える。

NPS Photo by Mike Quinn

米国国務省の国際情報プログラム局は、eJournal USAのロゴ名で毎月電子ジャーナルを発行し、米国や国際社会が直面する主要な問題、ならびに米国の社会や価値観、考え方、様々な制度について検証しています。

最新号は毎月まず英語で発行され、続いてフランス語、ポルトガル語、ロシア語、スペイン語版が発行されます。必要に応じてアラビア語、中国語、ペルシア語の翻訳版が発行される場合もあります。ジャーナルはそれぞれ、発行巻数(出版された年の番号)と、号数(1年間に発行された各号の番号)別に目録に掲載されます。

ジャーナルの中で提示された意見は、必ずしも米国政府の見解や政策を反映するものではありません。米国国務省は、ジャーナルがリンクするインターネット・サイトの内容、およびこれらのサイトへの継続的な利用の可能性について、一切の責任を負いません。各サイトについての責任は、サイトの発行者のみに帰属するものとします。ジャーナルに掲載される記事や写真、イラストは、著作権についての明記がない限り、米国外での複製や翻訳を認めますが、明記があるものについては、ジャーナルに記載されている著作権保有者の許可を得なければなりません。

国際情報プログラム局は、<http://www.america.gov/publications/ejournals.html>で、ジャーナルの最新号とバックナンバーを数種類のデータ形式で提供しています。ご意見等は、最寄りの米国大使館、または下記の編集部までお寄せください。

Editor, eJournal USA
IIP/PUBJ
U.S. Department of State
301 4th St.S.W.
Washington, DC 20547
United States of America
E-mail: eJournalUSA@state.gov

本号について



© AP Images/Adventure Cycling Association, Dennis Coello

オハイオ州のクヤホガ渓谷国立公園でサイクリングを楽しむ人。同公園には、氷河が作りだした険しい渓谷と高いが狭い丘を含む珍しい地形が見られ、その中を曲がりくねった川が流れている。「クヤホガ」はアメリカ・インディアン言葉で「曲がりくねった川」を意味する。

米 国国民は国立公園制度を通して、山や砂漠、森林、湿地、ツンドラ、熱帯礁を所有し保護している。

すべての米国市民は、ある意味で、「建国の父たち」が新しい国家の姿を心に描いた場所や、古代の人々が都市を築いた場所の管理者である。米国人は地球上で最も背の高い生物や、亜熱帯の原生自然を活気づける何百もの希少種の保護者である。

米国国立公園局 (National Park Service: NPS) は、米国各地に散在し陸地面積の3.6%を占める公園、海岸、自然歩道、記念物、戦場などの管理を統括している。これらの場所とそこに生息する生き物は他とは区別され、保護され、現代世界全体に広がるアスファルト舗装やスプロール化、ネオン

サインの影響を免れている。国指定の公園地の総面積は3400万ヘクタールを超えるが、国立公園局の設置を定めた1916年の法律は、将来の世代のために、こうした公園地が損なわれることがあってはならないとしている。

同時に、公園の門はすべての人々に開かれている。米国人と多数の外国人旅行者がレクリエーション、休養、その他の目的で400近い国立公園のいずれかを訪れ、昨年訪問者数は延べ2億7700万人を超えている。公園を訪れた米国人の家族は、自分たちの国土が持つ驚くべき事物を実際に見てそれを共有し、何世紀にもわたって国土を形成してきた様々な力と人々について学ぶ。その経験は、米国とその成り立ちについて家族一緒に理解を深めた、ある1日の思い出を共有するという形で、家族の歴史の一部となる。

フランクリン・デラノ・ルーズベルト大統領はかつて、「我々の国立公園ほど米国的なものはない。公園の景色と野生生物は米国特有のものだ。国立公園の基本的なアイデアも米国生まれだ。手短かに言えば、米国という国は国民のものだ」と述べた。多くの米国人は、これと同じ思いを抱いて、訪れた公園を後にするだろう。

今回のEジャーナルでは、国立公園そのものの素晴らしい眺めのいくつかと、国立公園制度という広範にわたるシステムが、どのようにしてここ数十年間にその規模と使命を拡大してきたかの歴史の一部を紹介する。このうち、国立公園局長のメアリー・A・ボーマーと、映画制作者のケン・バーンズおよびデイトン・ダンカンが、国立公園が米国人および世界に対して示している国民的な精神と倫理について説明している。また、米国および外国の公園の幹部職員が、それぞれの国で国家遺産として受け継がれてきた宝物である土地、生物、文化を保存・維持する方法を改善するため、どのようにしてアイデアや技能、技術の交流を図っているかを探る記事もある。

編集者一同



米国国務省 / 2008年7月 / 第13巻 / 第7号
<http://www.america.gov/publications/ejournals.html>

国家遺産としての国立公園

米国の精神

- 5 国立公園が持つ精神的・文化的重要性
エドウィン・バーンバウム、山岳協会「神聖な山々」プログラム責任者
米国の国立公園は、単なる名所や珍しい地質が見られる場所ではない。国立公園は米国の精神の一端を表している。
- 9 米国の物語そのもの
ケン・バーンズ、デイトン・ダンカンへのインタビュー
ドキュメンタリー映画制作者である2人は、米国の国立公園と、国立公園が伝える国土、国民、民主主義の物語を紹介するテレビ番組シリーズの制作に取り組んでいる。制作は最終段階に入っている。
- 13 国立公園を彩る至宝
米国の国立公園のフォト・ギャラリー
- 23 米国の国立公園における景観と科学
リチャード・ウエスト・セラーズ、“*Preserving Nature in the National Parks: A History*” (国立公園の自然を守る：変遷の歴史) の著者
国立公園局は、素晴らしい景観の保護とともに、公園を人間の訪問者と共有する最もやさやかな生き物の保全にも苦心して取り組んでいる。

- 28 公園は国を変える
アルバロ・ウガルデ、コスタリカ国立公園局元局長
国立公園制度の創設とコスタリカの生物多様性を守る取り組みは、同国における自然資源に対する考え方を変えた。
- 31 オー、レンジャー：後世に残るものをつくる
クリス・バーター、アカディア国立公園自然歩道管理責任者
- 32 米国の国立公園：年表
130年以上の間、国立公園に影響を与えた事件の一覧

公園の将来を守る人々

- 35 公園はすべての米国人を結ぶ特別な場所
メアリー・A・ボーマーへのインタビュー
国立公園局長が、米国の物語と米国が植民地から国家として拡大する過程における公園の象徴的意味を語る。
- 38 公園でなくても公園
米国国立公園局は400近い公園や史跡などを管理しているが、その規模、範囲、歴史はそれぞれ大いに異なる。
- 40 パークレンジャーとスイスの山岳ガイド
米国の国立公園は、訪れる人々の経験を豊かにする方法をスイスから取り入れた。

- 41 オー、レンジャー：呼びかけてくる岩
ボブ・スペルホフ (Spoelhof)、カリフォルニア州デスバレー国立公園の解説担当パークレンジャー。
- 42 変化の動向
ジェフ・レニック (Rennicke)、ウィスコンシン州のコンサーブ・スクール教師
国立公園では温暖化ガス排出量削減と気候変動に対する取り組みが始まっている。
- 44 侵入生物種を撃退する
国立公園局は侵入植物種の抑制と在来植物生息地の保全にも取り組む。
- 45 オー、レンジャー：世界で最も美しい職場
スー・オコナー、コロラド州ロッキー山脈国立公園の道路整備重機オペレーター

文化遺産の尊重

- 46 古代人の遺跡を守る
チャーリー・ポーター、Eジャーナル副編集長
国立公園局は先史時代のアメリカ人住居跡を保全し、諸外国の専門家と保存技能の共有を図る。
- 49 人類全体の遺産
世界遺産条約は世界で800カ所を超える世界遺産登録地を保護している。
- 51 オー、レンジャー：キング牧師が立った階段の上で
マリサ・リチャードソン、ワシントンD.C.にあるナショナル・モールと記念公園の解説担当パークレンジャー。
- 52 追加参考資料

カリフォルニア州にあるヨセミテ国立公園の草原を静かに流れるトゥオルム川 (Tuolumne River)。保護に値する景勝河川に指定されており、公園内を85キロにわたって流れる。草原の北側へ回ると、ハイカーはふもとへ降りる小道に出会う。この小道に沿っていくつもの滝が連なり、印象的な風景を展開している。



© AP Images/Yosemite Concession Services, Keith Walklet

国立公園が持つ精神的・文化的重要性

エドウィン・バーンバウム



© AP Images/Eric Risberg

カリフォルニア州マリナー郡にあるミューアウッズ国立公園の樹木は、地球上に残る最後の原生林のひとつにある。このコースト・レッドウッドは世界で最も背の高い生物である。自然保護活動家ジョン・ミュアにちなんで名づけられた同公園は、2008年に100周年を祝った。

国立公園は、単なる名所・旧跡や記念建造物、保護地域ではない。また、山や森林、湖、あるいは珍しい地質が見られる場所でもない。国立公園は米国の精神の一端を表している。

エドウィン・バーンバウム博士は、山岳協会 (Mountain Institute) の Sacred Mountains Program (「神聖な山々」プログラム) を指揮しており、“Sacred Mountains of the World (世界の神聖な山々)” の著者でもある。本稿は、同博士が執筆に参加してアメリカン・パーク・ネットワークから出版された “America’s Best Idea—A Photographic Journey Through Our National Parks (米国が生み出

した最高のアイデア——写真で旅する私たちの国立公園)” (2006年初版、2008年第2版) からの抜粋である。

国立公園に残されている素晴らしい自然の景観や地形には、大きな驚きの念を抱かせる力がある。霧の中に浮かび上がる幽玄な山の頂、ゆったりと空を滑るように飛ぶワシの姿、うっそうと茂る原生林に斜めに差し込む明るい日の光——こうした美しい自然を目にすると、我々は言いようもない感動を感じる。国立公園は訪れる者に日常生活を忘れさせ、我々には制御不能な力に支配された、神秘と輝きに満ち

た荘厳な世界へといざなう。多くの人々は、日々の様々な雑事から逃れ、より深く永続的な価値のある何かを体験しようと国立公園を訪れる。実際、手つかずの自然が残るこうした保護区域は、魂をリフレッシュさせる場所であり、そこで我々は自らの存在の原点に立ち返り、新たな始まりに向けて新鮮な気持ちを取り戻すことができるのである。

国立公園は、地質学的、生物学的な多様性と知識の宝庫としての科学的価値だけでなく、米国民にとって大きな精神的、文化的重要性を持っている。魂をリフレッシュさせる霊的な場所として自然をとらえる考え方は、1916年の国立公園局の創設において主要な役割を果たした。例えば、初期の自然保護活動家であったジョン・ミュアがカリフォルニア州にヨセミテ国立公園を創設しようと尽力した主な動機は、ヨセミテ溪

谷を「人の手でつくられたどの神殿よりもはるかに見事な神殿」として保護することであった。国立公園保全協会(NPCA)の調査によれば、国立公園に対する国民の支持を喚起する上で最も説得力のあるメッセージは、国立公園は「地球上で最も美しく荘厳で畏敬の念を起こさせる場所を我々に与えてくれる」というものである。

国立公園の美しさと壮大さは、すばらしい美術作品や写真、文学作品や音楽作品を生み出してきた。19世紀後半、画家トーマス・モランがワイオミング州のイエローストーン国立公園を、アルバート・ピアスタットがヨセミテ溪谷を印象的に描き出し、これらの素晴らしい場所に国民の注目が集まることとなった。悠久の時を経た木々や雄大な山々を写し出した写真家アンセル・アダムズの写真は、国立公園に残され



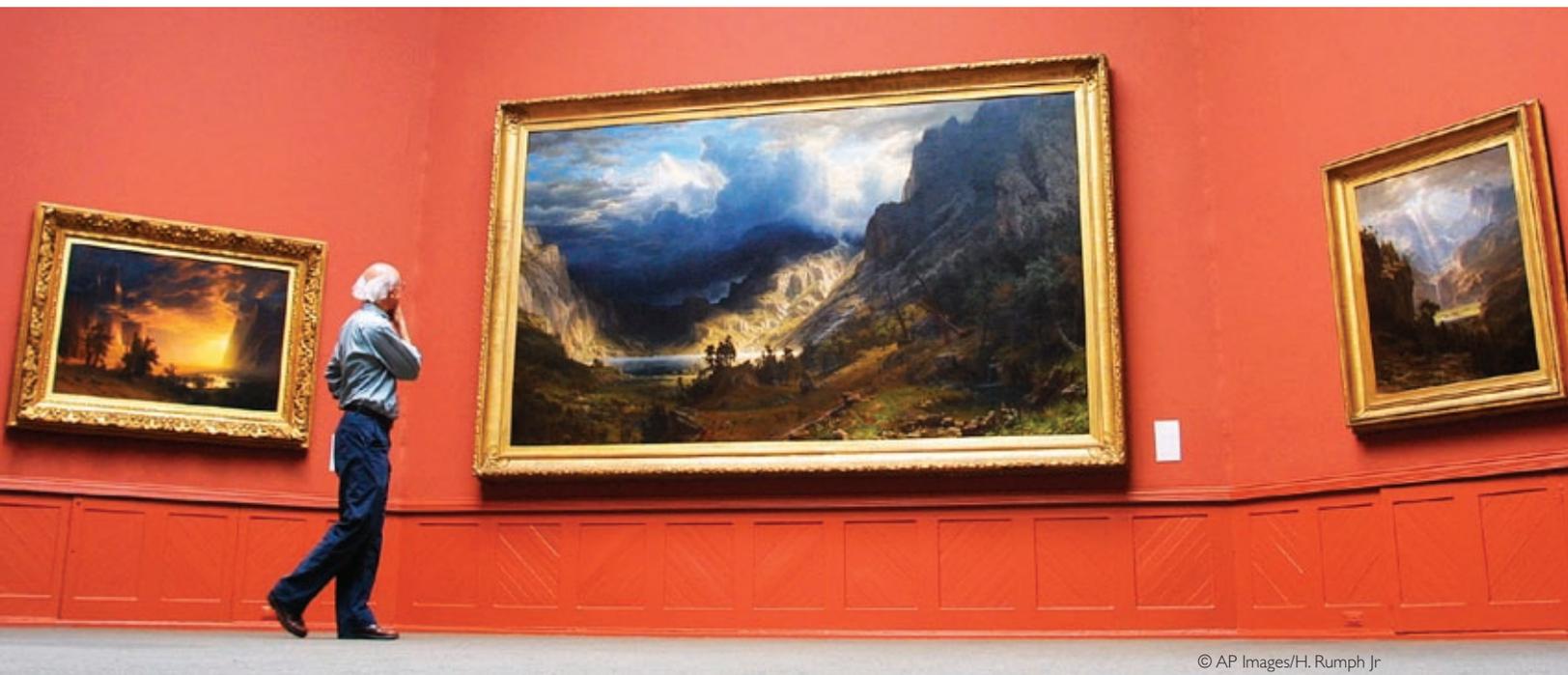
NPS, Nez Perce National Historical Park

2005年のトレイルライドで、ネズパース国立歴史公園内の38カ所の名所や史跡のひとつ、ビッグ・ホール国定戦跡に戻ってきたネズパース族の人々。アメリカ・インディアンのネズパース族は、先史時代から、現在のアイダホ州、オレゴン州、モンタナ州、ワシントン州にまたがる地域で暮らしてきた。今日、ネズパース族の人々は、自分たちの歴史や文化と関連する場所や物語、遺物の保護・保全に国立公園局と連携して取り組んでいる。

た、時間を超越した美しさを我々に喚起させる。また、アリゾナ州のグランドキャニオンを訪れた作曲家ファーディ・グロウフェは、その風景に心を強く打たれ、この感動はとて言葉では表せないと感じた。そして、音楽を通じてしか自分の体験を人に伝えることはできないと考え、代表作となる「グランドキャニオン組曲」を作った。

国立公園は、伝統的遺産とアイデンティティを表す文化的象徴の役割を果たしている。多くの人々にとって、国立公園は

国立公園には、米国の重要な価値観や夢が秘められている。例えば、アラスカ州のデナリ国立公園やグランドキャニオン国立公園の高い峰や深い峡谷は、米国賛歌「アメリカ・ザ・ビューティフル」がたたえるアメリカ合衆国の荘厳さと雄大さを具現している。国立公園制度の下で保護されている広大な風景や解き放たれた場所は、米国の文化と歴史の中核にある自由と独立の探求を我々に思い起こさせてくれる。例えば、グランドティートン国立公園（ワイオミング州）、ノースカスケード



© AP Images/H. Rumph Jr

フィラデルフィアのペンシルベニア美術アカデミーに展示された19世紀後半の画家アルバート・ピアスタットの作品。米国西部の自然の素晴らしさに国民の注目を集め、その保護を目的とした国立公園の創設への支持を確立する一助となった。

建国当初の米国の本質と開拓者精神を残す場所である。親たちは、この国の価値観や理想、起源が大切に守られている名所・史跡に親しませようと、子どもたちを国立公園詣でに連れて行く。NPCAの調査で、説得力のあるメッセージとして上記に僅差で続いたのは、「国立公園は我々が子どもたちに残す遺産である」というものであった。

イエローストーン、ヨセミテ、グランドキャニオンなどが国全体を代表する象徴となっているのに対して、ワシントン州にあるレーニア山の氷河に覆われた山頂は、太平洋岸北西部を連想させる象徴である。また、最も訪問者の多い国立公園であるグレートスモーキー山脈国立公園の魅力の多くは、アパラチア人やチェロキー族の文化との結びつきから生まれている。

国立公園（ワシントン州）、ランゲル・セントエライアス国立公園（アラスカ州）の高い山々や人里離れた荒野は、人格形成と米国の「成せば成る」精神を養うのに役立つ挑戦と冒険の機会を与えてくれる。多くの人々が、レッドウッド国立公園（カリフォルニア州）、ロッキー山脈国立公園（コロラド州）などの原生林や閑静な場所を自然の大聖堂として訪れ、心静かに瞑想し、自分は何者なのか、人生で大切なものは何かを再確認しようとする。

アメリカ・インディアンは、ハワイ州、アラスカ州、サモアの先住民の文化と同様に、自分たちの最も深い精神的価値観の多くを、現在では国立公園内にある土地と関係のある神聖な場所や信仰、習慣や伝統と結びつけている。コロラド高原に

住むホピ族などの部族は、謎に包まれた祖先であるアナサジ族の断崖住居で儀式を行うために、メサベルデ国立公園を巡礼に訪れる。チェロキー族は、ノースカロライナ州とテネシー州にまたがるグレートスモーキー山脈を先祖伝来の土地と考えており、クリングマンズ・ドームなどの丸みを帯びた山頂を、救いと癒しの場、命を与える川の源と見なしている。ハワイ先住民は、ハワイ火山国立公園のキラウエア火山の溶岩や植物を、燃えたぎるエネルギーで生命と豊穡をもたらす火山の女神ペレの住む聖域であり、その体であるとして崇拝している。ブラックフィート族やラコタ族などの平原インディアンは、グレーシャー国立公園(モンタナ州)やバッドランズ国立公園(サウスダコタ州)などにある儀式の場でサンダンス(太陽の踊り)を踊り、ビジョンクエスト(アメリカ・インディアンの成人の儀式)に出る。国立公園局は、北米最高峰のマッキンリー山に対するコユーコン語の伝統的な名称を尊重して、アラスカ州のマッキンリー山国立公園をデナリ国立公園および保護区に改称した(「デナリ」は「偉大なもの」を意味する)。アメリカン・サモア国立公園は、サモア人の「聖なる大地」であるサモアの慣習や信仰、伝統を守る役割を果たしている。

最後に、国立公園は米国でも世界でも、あらゆる文化の人々にとって特別な価値と魅力を持っている。例えば、太平洋岸北西地区に住む日系米国人は、レーニア山を故国日本の象徴である神聖な火山と結びつけ、「タコマ富士」と呼んでいる。アフリカ系米国人は、ヨセミテ国立公園やセコイア国立公園などの国立公園を初期の頃を守る役目を果たしたアフリカ系米国人の陸軍兵士、バッファロー・ソルジャーに特別な誇りを抱くことがある。世界中の人々が、自分たちの国に同様の保護区域を設定するための知識を得ようと、米国の国立公園を訪れる。米国が生み出した「最高のアイデア」は、世界各地の特別な場所を保護するためのモデルとなっており、世界の文化に大きく貢献している。

本稿に述べられている意見は、必ずしも米国政府の見解あるいは政策を反映するものではない。

米国の物語そのもの

ケン・バーンズ、デイトン・ダンカンへのインタビュー



© AP Images/David Jordan

ハワイ火山国立公園にある活火山のひとつ、キラウエア火山から流れ出る溶岩。同公園を訪れた人々は、7000万年におよぶ火山活動の所産を観察することができる。この火山活動によって、現在では独特の生態系と文化が存在する島々が形成された。海面から標高4200メートル近くに至る範囲に広がる同公園には、7つの生態区分が存在する。

ケン・バーンズとデイトン・ダンカンのドキュメンタリー映画制作チームによる米国の国立公園をテーマにした12時間の映画の制作が、現在、最終段階に入っている。国立公園局職員に対する試写会を行うためにワシントンD.C.に滞在していた2人に、Eジャーナルのアレクサンドラ・アブード (Alexandra Abboud) が話を聞いた。

ケン・バーンズは、米国で最もよく知られているドキュメンタリー映画制作者のひとりであり、主に歴史上の出来事に焦点を当てたその作品は幅広い賞賛を受けている。バーンズの映画は全米公共テレビ放送網 (PBS) にも登場し、多くの視聴者を得ている。“The Civil War (南北戦争)” は、米国の公共テレビ放送の歴史において最も高い視聴率を記録したシ

リーズとなった。

デイトン・ダンカンは、“Out West: A Journey Through Lewis & Clark’s America (米国西部：ルイス&クラークの米国を巡る旅)” “Miles From Nowhere: In Search of the American Frontier (辺境の地：米国のフロンティアを求めて)” など9作品がある作家であり、映画制作者でもある。映画 “The Civil War,” “Baseball (ベースボール),” “Jazz (ジャズ)” をバーンズと共同で制作した。

質問：あなた方はこれまで、“The Civil War” “Jazz” “Lewis and Clark: The Journey of the Corps of Discovery (ルイス&クラーク：探検隊の旅)” など、米国の国家と文化の歴

史において重要な位置を占めるテーマを扱った映画を制作してきました。国立公園も、国家の歴史における重要な何かを表すテーマなのではないでしょうか？

バーズ：そのとおりです。私たちは映画のテーマを選ぶ際、全体が部分の合計より大きいものを探します。それによって、米国の物語に内在している矛盾と可能性を同時に映し出



映画制作者のデイトン・ダンカン（左）とケン・バーズ。編集室で。

すことができます。私たちが一連の作品で焦点を当ててきたのはその点だと言えます。私たちは、空間に関する次のような問いを追求してきました——「我々と米国の国土との関係は、我々国民にどのような輪郭を与えているのか?」。私たちは、さまざまな文化が衝突するとてつもない「交差点」である西部の歴史の中で、この問いを探求してきました。“Lewis and Clark” や、初の自動車による全米横断を描いた映画“Horatio's Drive(ホレイショの自動車旅行)”で探求したのもこのテーマです。そして、この6年間は国立公園の歴史に取り組んでいます。米国人がこの土地を保護する話には、米国の物語そのものがあるからです。

ダンカン：国立公園制度は、ベースボールやジャズと同様に、米国の発明品です。1872年にイエローストーンが国立公園に指定されましたが、都市公園や公共庭園などではなく、広大な土地を将来の世代のために保護・保全すべきであるという決定を連邦政府が下したのは、人類史上それが初めてでした。国立公園は米国のアイデアであり、米国が作り出したものなのです。私たちの映画では、その物語を最初から追っ

ていきます。自由の概念と同じように、国立公園は米国の最大の輸出品のひとつとなりました。極端な愛国主義者だと思われたいくはありませんが、私はそれを大変誇りに思っています。

質問：国立公園制度は、「米国が生んだ最高のアイデア」と呼ばれています。国民に楽しんでもらうため、またその土地自体のために、このような方法で土地を保護する決定をどの国より

も先に下したからです。あなた方は、国立公園制度を米国の重要な輸出品だと考えていますか？

バーズ：もちろんです。私たちは、この国をひとつにまとめあげている自由の概念こそが最高のアイデアだと考えていますが、建国後に生まれた最高のアイデアを挙げるとしたら、国立公園ならばそう呼ぶのにふさわしいでしょう。200近い国々に4000近くの国立公園があるという事実は、このアイデアがいかに大きな成功を収めているかを物語っています。今、ここに座って話をしている、私たち米国国民には、世界一雄大な山並み、地球上で最も壮大な峡谷、世界一大きく高く古い樹木があります。それは国民にとってすばらしい財産です。

ダンカン：国立公園は民主主義の表れです。つまり、これらの特別な場所を大富豪や肩書のある人々、貴族の領分にはいけないのです。この国の最も壮大な場所は皆のものです。皆が責任を持ち、皆が利用できるものです。それが、世界一背の高い樹木、最も雄大な滝、最も壮大な峡谷といった風景に適用される民主主義の定義です。それが可能であった国は、民主主義の概念に基づいて生まれた国なのです。

バーズ：そのような民主主義の力がなければ国立公園はできなかったでしょう。

ダンカン：私たちの映画がたたえているのはその点です。

質問：国立公園制度の下にある公園や記念建造物、名所や史跡からは、民主主義、自然、先史時代、そして国家の歴史における栄光の時と屈辱の時についての物語を知ることができます。そうした数々の物語のうち、あなた方がこの映画で伝えようとしているのはどのような物語ですか？

バーズ：私たちは、現在58カ所ある自然公園の創設に主な焦点を当てており、それらの自然公園がどのように誕生したかに関する非常に複雑で劇的な物語を追っています。と



Library of Congress, Prints & Photographs Division

米国の自然保護活動家ジョン・ミュア。「すべての人々に、パンと同じように美が必要である。遊んだり祈ったりする場所、自然の力によって身も心も癒され元気づけられるような場所が必要である」と述べている。

りわけ、それは人々をめぐる物語です。ありとあらゆる背景の人々が、保護してもらいたいと考える特別な場所に政府の関心を半ば強引に向けさせ、多くの場合、そのために生涯を捧げました。

ダンカン：どの国立公園の石をひっくり返しても、見つかるのは活発な民主主義です。それぞれの国立公園に、「小さな」民主主義が最高の力を発揮した物語があります。「この場所を保存しよう」と言って人々が団結し、しばしば、よく言っても無関心としか言えない連邦議会を説得して、その場所を保存・保護させたのです。民主的な考えは抽象的なものですが、いつでも個々の米国人や少数者のグループが民主主義という手段を使い、子孫のためになることを成し遂げてきたのです。トマス・ジェファソン（第3代大統領で独立宣言の起草者）も、これを聞いてほほ笑んでいることでしょう。

バーズ：私たちは、ジョン・ミュア1やテディ（セオドア）・ルーズベルト2など、誰もが知っている人物も追いますが、そのほかにも、さまざまな背景や民族性、人種、性別、出身国の非凡な人物を数十人ご紹介します。映画では、彼らがその目的のためにどのように生涯を捧げたか、彼らの行動が今話しているこのより大きなアイデアとどのような接点を持ったのかを伝えます。

ダンカン：国立公園制度には史跡の保存は含まれていませんでしたが、1930年代になって、国立公園局——当時は、まだかなり若い機関でした——が、私たちの年代記的、歴史的な物語においてこのアイデアの誕生と進化をたどる場所、例えば戦場やリンカーン記念館、ワシントンD.C.のナショナル・

モール、自由の女神像などを保存する役割を担うことになりました。この種の史跡を含むことで、国立公園は米国そのものを象徴するようになったのです。米国という概念そのものを取り込んだわけです。

映画では、インディアンシャイアン族の虐殺が起きたワシタ戦場国定史跡、日系米国人の強制収容所の跡地であるマンザナール国定史跡、リトルロックのセントラル高校3、そしてオクラホマシティー4やシャンクスビル5に至るまでの場所で、次の点を強調しています。このアイデア——将来のための保存に国が積極的に取り組むという考え方——がついに、悲しむべき出来事が起きた場所までも、それが二度と起きないようにという意味で包含できるようになったのだと。

バーズ：私たちの映画、そして国立公園をめぐる体験において非常に重要な事柄のひとつは、そこに歳月という要素が付加されている点です。私たちは国立公園を、最近の歴史的出来事やグランドキャニオンの形成のような大規模な地質学的事象などの形で、歳月が見事に表現されたものと考えています。しかし、映画の中でも多くの人々が指摘しているように、肝心なのはこれらの場所を体験したということだけではなく、誰と体験したかなのです。国立公園をめぐる体験は、多くの場合、母親や父親が連れて行ってくれたという事実に影響を受けており、そのため自分の個人的な心理と深く結びついています。そして、大人になって今度は自分が子どもたちを連れて行き、国立公園に具現化される「場所を愛する心」を、歴史家ウィリアム・クロノンが言うところの「親密な伝達 (intimate transmission)」を通じて次の世代に伝えていくのです。

欧州の大聖堂を訪れると、人々が3世紀をかけて手作業と献身的な働きで[それを] 建立したことに感動を覚えますが、それと同じように、国立公園は、ひとりひとりが感知できないようなわずかな厚みを物語に加えているような感覚を我々に与えます。なんと素晴らしいことでしょう。

質問：数カ月にわたる撮影の間に訪れた場所の中で、一番感動したのはどこですか？

バーズ：私たちはとても運が良く、友人や仲間として、多くの場所で数々の珍しい体験をすることができました。長女とグランドキャニオンで川下りをし、谷底から上に登って、頂上で爽快感を味わいました。また、アラスカ州デナリ[北米最高峰を擁する場所]の奥地に入ったことも心に残っています。アンカレッジから車で4時間かけて入口に到着し、ほとんど舗装されていない道路をさらに約145キロ進んで、最奥地にたどり着きました。私たちは、雲に覆われたデナリ山を低速度撮影す



National Geographic/Getty Images

6200メートル近い高さを誇るマッキンリー山は、北米最高峰であり、アラスカ州のデナリ国立公園の主役である。240万ヘクタール以上にわたって広がるその荒野には、ムース、カリブー、オオカミ、グリスリー（ハイイログマ）が生息している。考古学者らにより、1万2000年前にこの地にアラスカ先住民が存在していたことを示す遺物も見つかっている。

るためにカメラを設置しました。そして、辺りを虫が飛び交い、サンドイッチしか食べるものがない中で3時間近くを過ごした頃、デナリ山が突然姿を現したのです。デイトンは息子を連れて来ていましたし、長年私たちと仕事をしているカメラマンも一緒でした。奇跡のようでした。

ダンカン：このプロジェクトのいいところは、この国の最も壮大な場所を訪れるという任務を私たちに与えてくれるところです。夜から昼への変化を観察するためには、そこに日の出45分前にいなければなりません。自然界では、それはこの上もなく神秘的な瞬間です。私たちはいいショットを撮ることに集中し、かなりの時間、ただひたすら日の出を静かに待ち続けます。そして神秘的な光が差すと、その時が到来するのです。それはもう最高です。

家族との旅行は、その神秘的、物理的、精神的な瞬間を、息子や妻子と味わうことで一層大きいものにします。父の日に息子とグランドキャニオンをハイキングするほど素晴らしいことはありません。ハワイで息子が夜明け前の溶岩原に入り、日の出や、溶岩の滝が海に流れ込み新しい大地をつくり出すのを眺める——それは決して忘れることのできない体験ですし、息子にも忘れずにいてほしいと思います。

注記：

1. ジョン・ミュア (1838~1914年) は、当時の米国を代表する自然保護活動家のひとりと考えられている。カリフォルニア州のヨセミテ渓谷の保護を提唱したほか、著名な環境保護団体として今日も存続しているシエラクラブの創設者でもある。

2. セオドア・ルーズベルトは、1901年から1909年までアメリカ合衆国の大統領を務めた。その任期は1916年の国立公園局の創設より前であったが、彼の在任中に、連邦政府は国有林や国定記念物の指定を大幅に増やした。

3. アーカンソー州リトルロックのセントラル高校は、米国の公民権運動史上に残る出来事の舞台となったところであり、現在は国定史跡になっている。1957年、同校へ黒人生徒9人が入学したが、これに反対する群衆が抗議を行った。ドワイト・アイゼンハワー大統領は軍隊に命じてこの生徒たちを守らせ、学校における人種分離廃止を支持する連邦最高裁判所判決の執行に向けて連邦政府の決意を示した。

4. オクラホマシティー国立記念センターは、1995年にオクラホマ州の州都オクラホマシティーで起きた連邦政府ビル爆破テロの犠牲者や救助隊員に敬意を表すものである。このアルフレッド・P・マラー連邦政府ビルの爆破テロは、2001年9月11日以前に米国で起きた最も大きなテロ攻撃であり、この事件で168人が死亡、800人以上が負傷した。

5. ペンシルベニア州ジャンクビルは、2001年9月11日の航空機墜落事件を追悼する「93国定記念建造物 (Flight 93 National Memorial)」の設置が進められている場所である。93便の乗客は自らの命を犠牲にして、航空機を乗っ取ったハイジャック犯を取り押さえようとし、ワシントンD.C.への攻撃を阻止した。同機は田舎町ジャンクビルに墜落し、乗っていた44人が死亡した。

本稿に述べられている意見は、必ずしも米国政府の見解あるいは政策を反映するものではない。

国立公園を彩る至宝

米国の国立公園制度の下にある公園はいずれもユニークだ。地質に特色がある、自然が驚くべき様相を示している、この素晴らしい土地とそれをひとつの国に作り上げた人々の物語の一部を伝える重要な歴史的出来事の舞台である、などそれぞれ独自の特徴を持っている。Eジャーナル本号「国会遺産としての国立公園」では、そうした物語のいくつかを伝えるとともに、「創造の精神を吹き込まれた新しい天国、新しい地球」とかつて評した人もいる、素晴らしい眺めの一部を紹介する。



© AP Images/Wilfredo Lee

フロリダ州にあるエバーグレイズ国立公園の雑木林の茂みを飛びはねる2羽のトキ。このトキは、くちばしが赤いのが特徴で、米国南部から南米北部にかけて生息している。



© AP Images/Charlie Tasnadi

首都ワシントンにあるワシントン記念塔（左）とジェファーソン記念館。手前に見えるのは、日本から贈られた桜の木で、春に短期間開花する。この2つの記念建造物は、国立公園に指定されているナショナル・モールの一部である。



© AP Images/Chuck Brown

ハタラス岬国定海岸の名所となっている19世紀の灯台。レンガ造りの灯台としては世界一の高さを誇る。同国定海岸は、連邦議会が国立公園の地位を与えた最初の海岸で、米国大西洋岸の細長い砂州島に張り付くように広がり、面積は1万2000ヘクタールを超える。行楽客や漁業者を喜ばせる一方で、渡り鳥が羽を休める重要な場所にもなっている。



© AP Images/Douglas C. Pizac

グランドティートン国立公園。氷河の後退により残された湖から急にそびえたつ、のこぎりの歯のようにとがった山々で知られる。ワイオミング州にあり、イエローストーン国立公園に近接している。



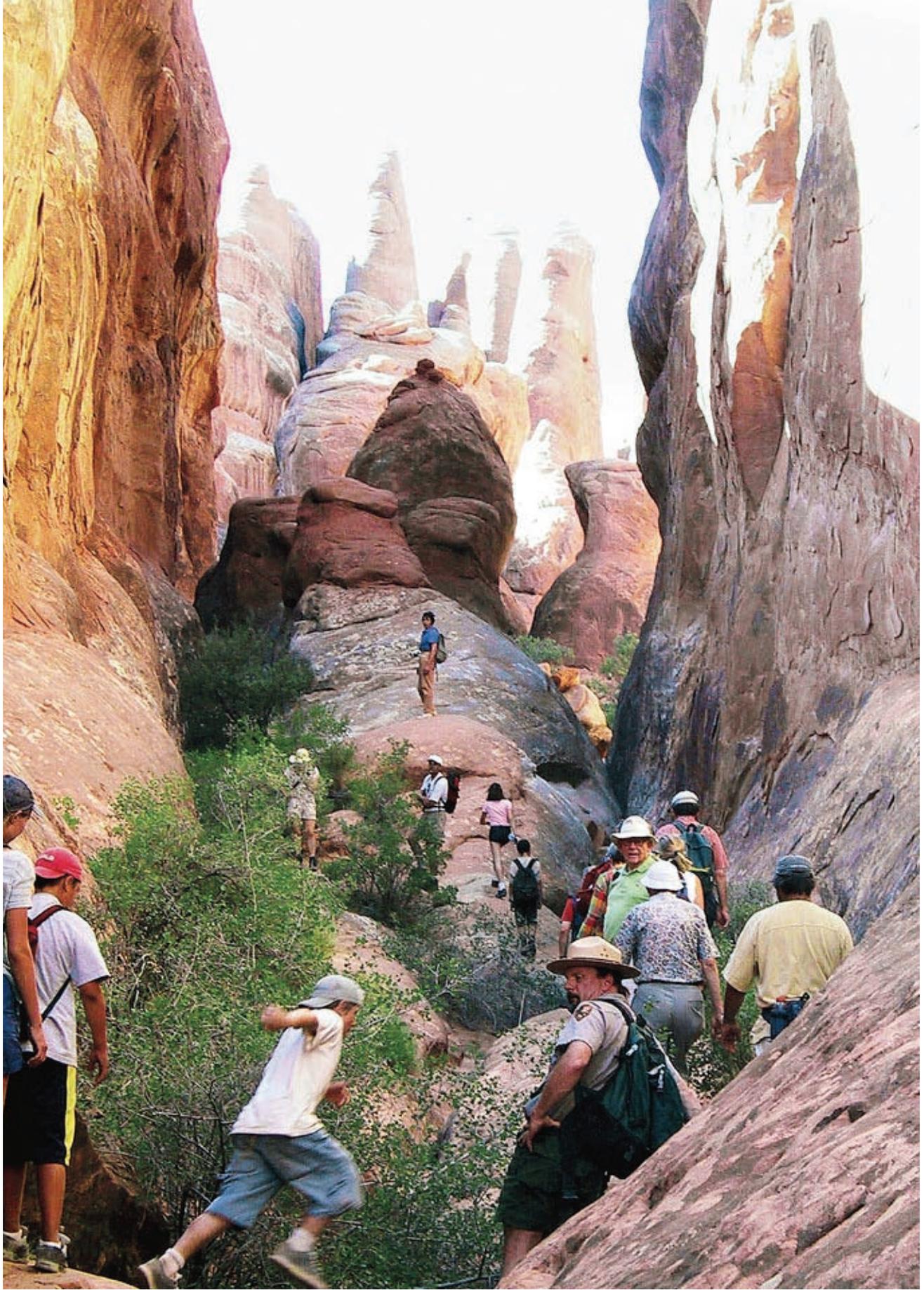
© AP Images/US, Fish and Wildlife Service, William Campbell

このハイロオオカミは首輪に無線発信機をつけており、イエローストーン国立公園の生物学者たちがその生態をモニターしている。ロッキー山脈のハイロオオカミの数を回復する取り組みが10年以上にわたって行われた結果、この伝説的な肉食動物は2008年に絶滅危惧種リストから外された。



© AP Images/News & Observer, Jim Bounds

米国大西洋岸のアトランティック・シーボードの砂州島を走り回る野生の馬。この野生馬の群れはノースカロライナ州にあるケープ・ルックアウト国立公園のシャックルフォード・バンク스에서撮影された。これらの野生馬の管理は国立公園局と民間の財団が共同で行い、一般の人々に引き取られることもある。



© AP Images/The Salt Lake Tribune, Judy Fahys

ユタ州にあるアーチズ国立公園の岩に登る来訪者を指導するパークレンジャー。同公園の奇観は何百万年にもわたって起きた地質学的な出来事を示し、天然のアーチの密度では世界一。

メイン州の岩だらけの海岸にあるアカディア国立公園は、ミシシッピー川以東では初の国立公園。先見の明のある環境保護論者が、20世紀初頭の開発がこの地域の自然美を侵食しているのを見て、国立公園をつくるため米国政府に土地を寄付した。

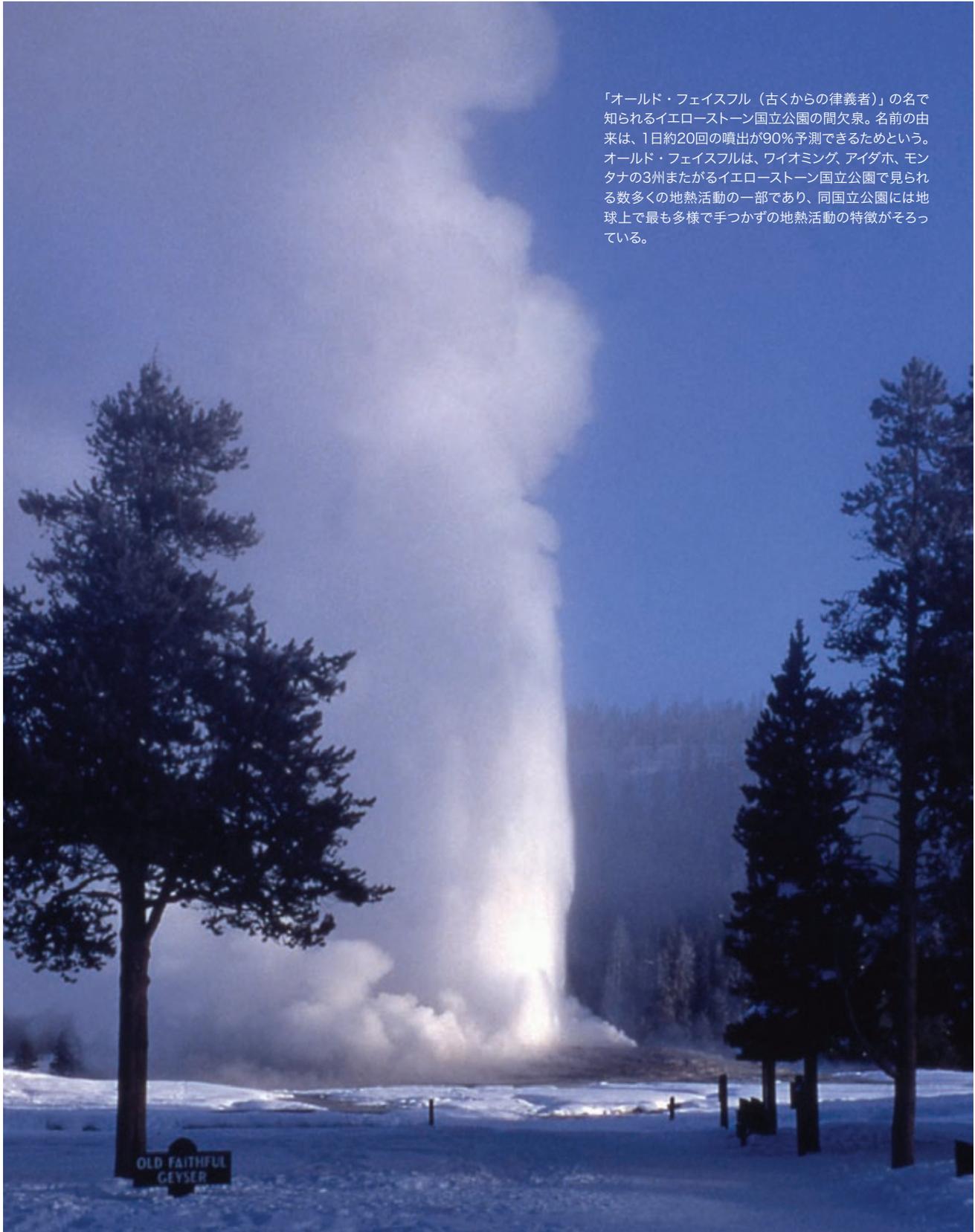


National Geographic/Getty Images



NPS Photo by Peter Craig

アメリカ・サモア国立公園の海中を泳ぐシマハギ (*Acanthurus triostegus*) とチョウチョウウオの1種 (*Chaetodon ephippium*)。この太平洋の島の公園の暖かい澄んだ海には、1000種類近い魚が見られる。1993年に国立公園に指定され、米国の国立公園制度に旧熱帯区の雨林、太平洋の島の景観、サンゴ礁生態系が加わった。



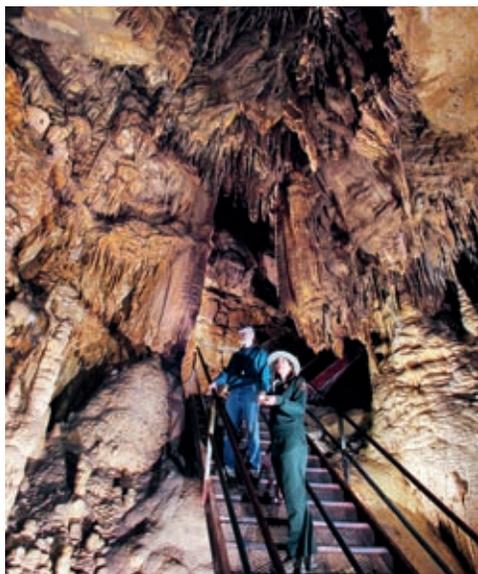
「オールド・フェイスフル（古くからの律義者）」の名で知られるイエローストーン国立公園の間欠泉。名前の由来は、1日約20回の噴出が90%予測できるためという。オールド・フェイスフルは、ワイオミング、アイダホ、モンタナの3州またがるイエローストーン国立公園で見られる数多くの地熱活動の一部であり、同国立公園には地球上で最も多様で手つかずの地熱活動の特徴がそろうている。

NPS Photo by Sandi Kinzer



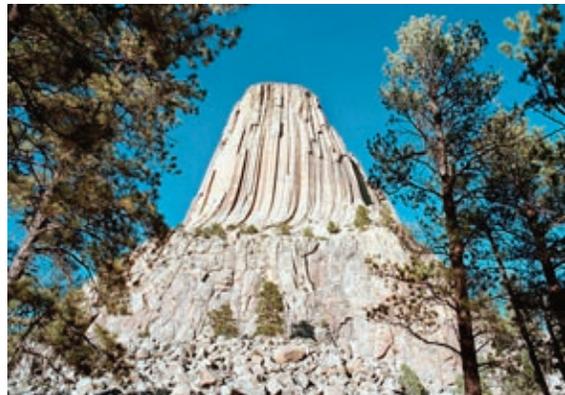
© AP Images

テネシー州とノースカロライナ州の境にあるグレートスモーキー山脈国立公園。山々を覆う広大な森林から発生する霧（もや）に因んで、「グレートスモーキー」の名前がついた。同国立公園には、米国東部では最も原始状態にある様々な自然環境が残り、きわめて多様な動植物が生息する。米国文化の多様性を体験できるのもこの公園の魅力だ。この地にはかつてアメリカ・インディアン部族が住んでいた。西部への進出に伴って、冒険心にあふれる開拓者がこれらの山々を旅し、入植したこともある。



© AP Images/NPS, Garry Berdeaux

マンモス・ケーブ国立公園は世界最長の洞窟系で、そのうちの約600キロについて地図が作成されている。1000万年前に始まった地質学的な力の作用によって作られた、洞窟内のトンネルや部屋は現在も探査中であり、いつ終わるか分からない。



© AP Images/Gillette News-Record, Stephen Berend

デビルズ・タワー国定記念物はワイオミング州北東部にある。この塔の創造については、約20のアメリカ・インディアン部族に伝説が残っており、多くの部族が塔を神聖な場所とみなしている。1977年の映画「未知との遭遇」でも大きく扱われている。



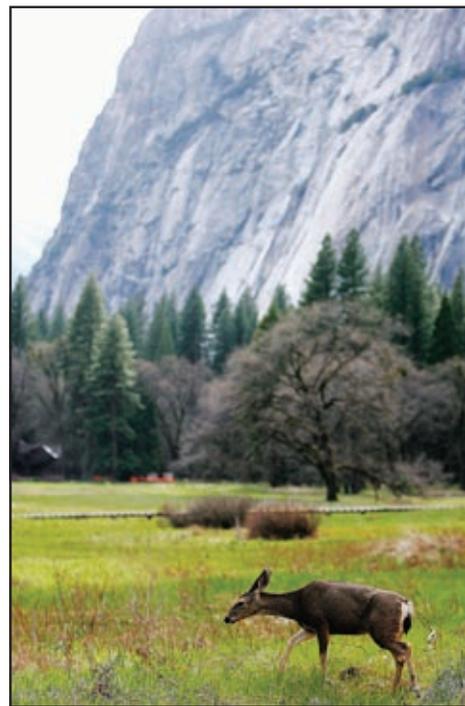
© AP Images/John Heilpinn

ユタ州にあるブライスキャニオン国立公園の呼び物は、風化と浸食の跡を示す不気味な地層の姿。



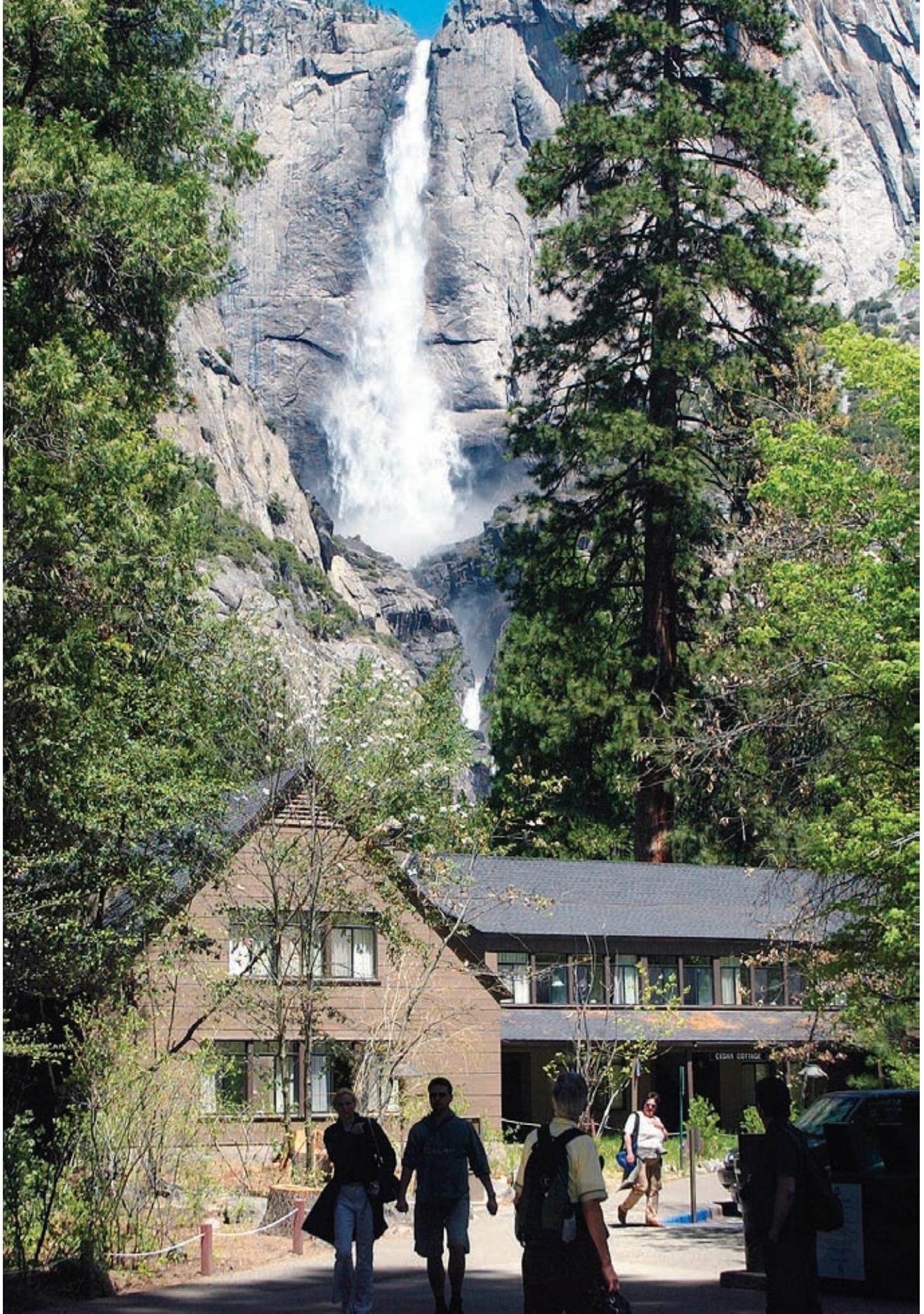
© AP Images/Ben Margot

ヨセミテ国立公園で特に人目を引くのは、エル・カピタンと呼ばれるこの絶壁で、ロッククライマーにとっての難関のひとつとして知られる。



© AP Images/jeff Chiu

カリフォルニア州のヨセミテ国立公園の草原では、シカを時々見かける。オオツノヒツジは人間が近づきにくい高山地帯の生息地を好むため、シカより見つけるのが難しい。ヨセミテでは、オオツノヒツジは生息数が少なく、絶滅危惧種とみなされている。



© AP Images/Fresno Bee, Mark Crosse

カリフォルニア州のヨセミテ国立公園では、川の流れが絶壁と出会って滝を作り、それが同公園の主な呼び物のひとつになっている。



© AP Images/Paul Hugas

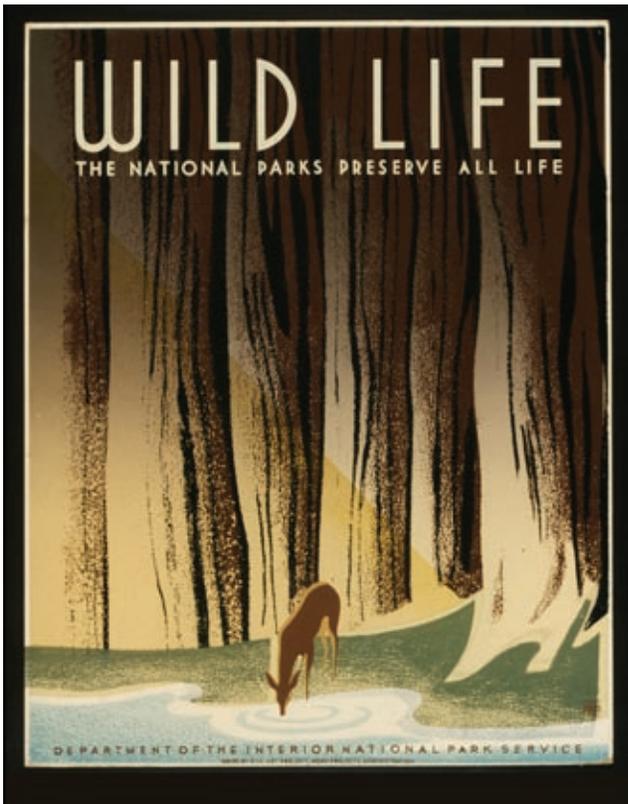
露出した岩の上に立つ単独行のハイカー。場所はメイン州、3460キロにおよぶアパラチアン・トレイル（自然歩道）の最終区間にある。同トレイルは、アパラチア山脈に沿って南北に14州を縦断する世界最古の自然歩道であり、その踏破は米国のハイカーにとって究極の挑戦のひとつである。アパラチアン・トレイルと、カナダからメキシコまで総延長4186キロに及ぶパシフィック・クレスト・トレイルは、国定自然歩道制度法に基づく最初の保護の対象となった。

米国の国立公園における景観と科学

リチャード・ウエスト・セラーズ

米国に初期の国立公園が創設された当時、自然界を支配している複雑な科学についてはあまり理解されていなかった。年月が経過する中、保護の対象となっているこれらの広大な公有地は、その生態系をよく理解していない官僚たちの手で管理されていった。そして数十年が経ってようやく、この国の最も貴重な資源の守り手たちは、そうした原則の重要性を正しく認識するようになった。

リチャード・ウエスト・セラーズは、国立公園局を退職した歴史学者であり、“Preserving Nature in the National Parks: A History (国立公園の自然を守る：変遷の歴史)” (イェール大学出版、1997年)の著者である。また、国立公園局の科学的な自然資源プログラムを創設した生物学者にちなんで名づけられた国際保護団体、ジョージ・ライト協会の元会長でもある。



1930年代後半の国立公園局のポスター。すべての生物の保護を謳っているが、その管理慣行において公園内の自然群集に十分な配慮が払われるようになったのは、数十年が経過してからであった。

1973年、私は歴史学者として国立公園局に初めて仕事に赴いた。私はこの由緒正しい機関の新任職員として、自然史の見事な展示とも言えるイエローストーン、エバングレイズ、グレートスモーキー山脈などの名高い国立公園の管理においては、同局の生物学者たちが主導的な役割を果たしているに違いないと思い込んでいた。つまり、公園における意思決定には、生態系に対する配慮が何よりも重視されるものと考えていた。なんと世間知らずだったのか！

それからかなりの時を経た1990年代、同局による国立公園の自然管理の変遷史を書いていた私は、生態学的に健全な管理を促進しようと生物学者たちが実際にはどれほど苦心してきたかを悟った。彼らは何十年もの間、同局の中で圧倒的に優勢な専門家たちと闘ってきた。その専門家たちの主たる関心は、観光客を誘致する手段として、公園の景観を保つことであつた。

公園管理に関するこれらの異なる考え方は、米国の国立公園が常に抱えてきた主要なジレンマを反映している。将来の世代のために、公園の何を保存すべきなのか。景観そのもの——森林や草原のまばゆい風景、高い山々、野の花、印象的な動物——なのか。それとも、それだけでは不十分なのか。「スーパースター」的な生き物や風景だけではなく、草や土壌菌類などありとあらゆる地味な種も含めた、各公園の自然体系全体なのか。

この数十年の間に、この問題において考慮すべき新たな点が出てきた。国立公園は次第に、地球にとって生態学的に不可欠なものと考えられるようになってきたのである。アマゾンの熱帯雨林が地球全体にとって独自の重要性を持つように、国立公園もまた、地球全体にとって独自の意義を持つと見なされるようになったのだ。

とはいえ、国立公園の荘厳な美しさは、あたかもその景観だけが国立公園を価値のあるもの、そして保護に値するものにしていくかのような印象を我々に与えてしまう。実際、景観の保存は、最も初期の国立公園——1872年のイエローストーン、続いて1890年のセコイアとヨセミテ——の創設における主な要因であった。見事な地形に加えて人々にとって最も重要だったのは、ネズミやサンショウウオではなく、森林や野の花



NPS Photo

イエローストーン国立公園内に1904年に建築された「オールド・フェイスフル・イン」は同公園への観光客を増やしたが、当時の建築者たちは、建築がもたらす生態学的影響についてはほとんど考慮しなかった。

など人目を引く自然の要素であった。19世紀後半には、生態学はおぼろげにしか理解されていなかった。公園の区域内には多くの重要な生物群集が含まれていたが、これは偶然によるところが大きい。自然の美しい「外観」である景観を守る目的で保存されている地域に、これらの生物群集がたまため生息していたということだ。

「外観」の管理：景観の重視

連邦議会は1916年、拡大を続ける国立公園制度の管理を一元化するために、国立公園局を創設した。この法律は、景観・自然物・野生生物の保護とともに、それらを国民が「将来の世代がその恩恵を享受できるよう、公園を損なうことなく」楽しめるようにすることを求めている。この法律の意図は、常に曖昧なままとなってきた。保護と利用の両方を認めているからだ。しかし実際の現場では、公園を「損なわな

い」という法律の趣旨は、ほぼ公園の景観だけに適用され、生物群集を構成する微細な要素には及ばなかった。

初期の公園管理者とその後任者たちは、公園の開発に当たって、景観の良い場所を観光客が訪れやすくなるように、新たな建造物と自然の景観との視覚的な調和を実現しようと努めた。彼らはキャンプ場をつくり、大きなホテルを建て、景色の良い公園の奥地に幹線道路を通した。技術者と景観設計者は、初期のホテルや博物館など多くの施設を公園の目玉となる場所のほぼ真上に建てたが、多くの場合、建造物が自然の景観の一部に見えるように、重い丸太や石を使った素朴な建築様式を用いた。同様に、道路や橋も自然環境に溶け込むように設計した。

初期の公園開発者は、こうした視覚的な要素に関心を寄せ、生態学的過程にはほとんど配慮を示さなかった。しかし公園管理者たちは、鉄道やダム、貯水池の建設などの大規模な侵入行為には反対した。また、森林や人目を引く野生生物、

特にカリスマ的な大型哺乳動物を保護した。そのため、観光施設を除いては、公園の山々や溪谷が傷つけられることはなく、森林は生い茂り、草原には植物が青々と広がっていた。

しかし、景観を維持するためには、科学を取り入れる必要性はほとんどなかった。その結果、生態学的に見て不健全な慣行が徐々に入り込んでいった。外来種を導入する、眺めの良い景色に黒い燃え跡が残るのを避けるために森林火災を抑制する、他の哺乳動物を捕食するピューマやオオカミを撲滅する、景観の良い森林に在来の昆虫がはびこって裸地化が進むのを避けるために殺虫剤を使用する、などの慣行である。

こうして「外観の管理」が定着した。生態学的な影響についてはほとんど理解されないまま、国民が楽しめるように景観の良い公園の管理が行われたのである。責任者たちには、開発が景観に深刻な影響を与えない限り、連邦議会が義務づけたとおり、「将来の世代がその恩恵を享受できるように、損なうことなく」公園を維持できるように思えた。

生態系への懸念

1920年代半ばまでに、公園の生物学者たちは、動植物は相互に関連のある複雑で大きな生態系の一部であるということに気づいた。しかし、研究に基づく科学的管理に対する国立公園局の関心は非常に低かったため、1929年に同局の自然科学プログラムがようやく立ち上げられた時も、同局職員であった裕福な生物学者、ジョージ・M・ライトの自己資金だけで賄われた。まもなくして国立公園局もライトのプログラムに資金を供給し始めたが、ライトが率いる生物学者たちの影響力が高まりつつある中で、1936年初頭、ライトが自動車事故で早世し、その後、彼らの影響力は大幅に低下した。

生物学者たちが——伝統に縛られた国立公園局と闘って——公園管理に影響力を発揮しようと再び本気で取り掛かったのは、30年近くが経ってからのことであった。今回は、外部からの後押しがあった。1963年の全米科学アカデミーの報告書は、国立公園局を厳しく批判し、公園の生態系を確実に保護するために、公園管理において徹底した科学研究の活用開始を求めた。同アカデミーは国立公園を「相互に関係し合う植物、動物、生息地から成るシステム」と表現し、「生物の銀行」と見なすよう促した。報告書は、主に景観を保つことだけを考える管理では不十分であるとの見解を明確に示した。

同じく1963年、当時の有力な生物学者のひとりであったカ

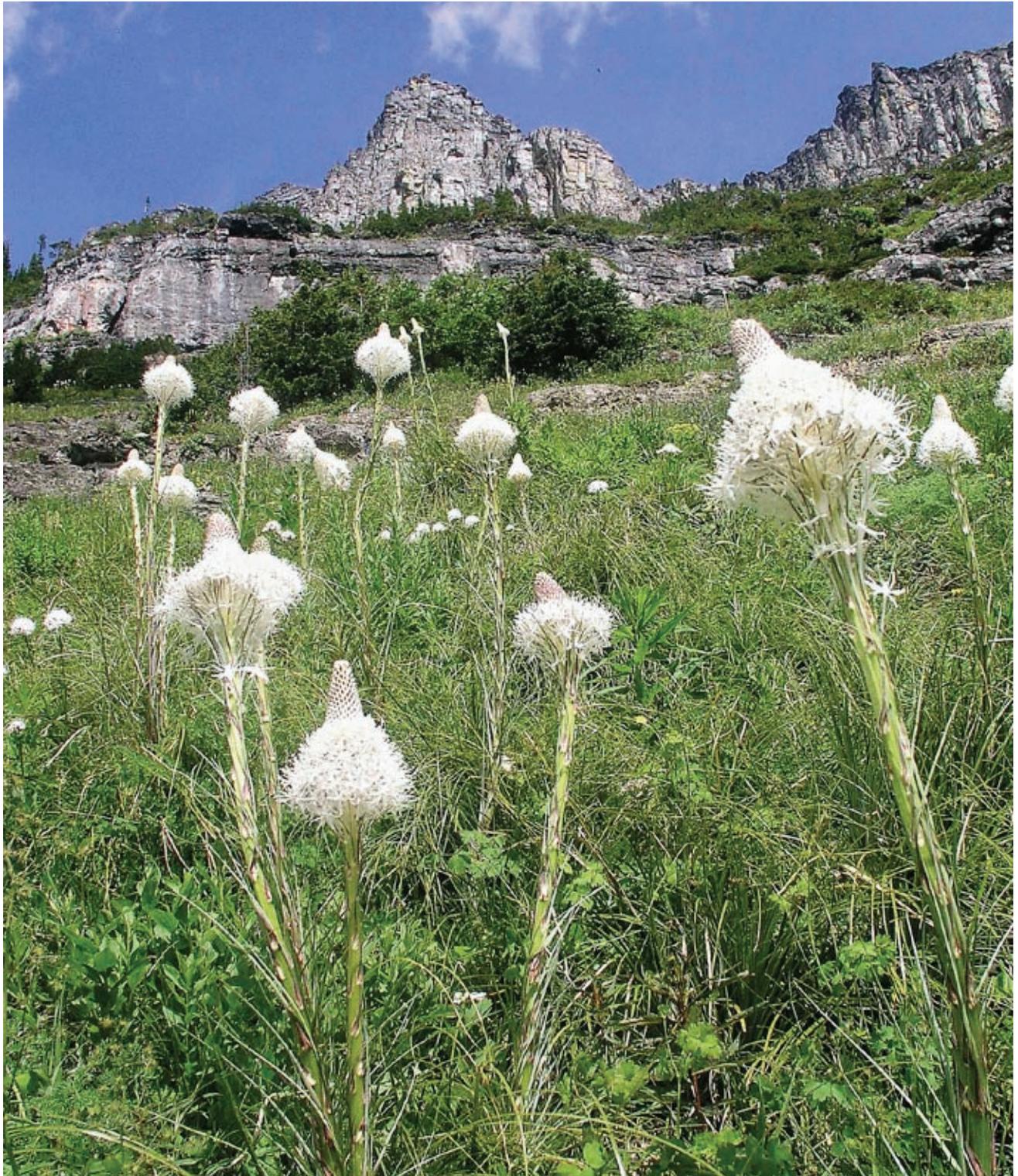
リフォルニア大学のA・スターカー・レオポルド教授が委員長を務める特別諮問委員会が、公園管理について、1916年の法律により国立公園局が設置されて以来最も影響力の大きい声明を発表した。この「レオポルト報告書」は、生態学的管理を強化する必要性を強調し、各々の大規模自然公園は「原始の米国を再現 (vignette of primitive America)」すべきだと主張した。そして、各公園内の生物の自然群集は「維持されるか、必要に応じて、その地域を最初に白人が訪れた時の状態にできるだけ近い状態に復元される」べきであると述べた。

このアプローチは、ヨーロッパ系米国人とその技術がもたらした大きな生態学的変化に対する認識を反映している。大規模自然公園において実現可能な限り、生態系の復元によってその変化を元に戻そうとしたのである。このように、レオポルト報告書は、外観の管理と生態学的管理の融合の基礎を築いた。原始の風景を再現すべきだという主張は、物理的な美しさの点からだけでなく、生態系の健全性の向上という点からも評価できるだろう。この試みの根底にあったのは、国立公園の荘厳な景観は続いて、その生物多様性は取り組み方を変えない限り存続できないという危機感であった。

レオポルト報告書が長期にわたって影響力を持ち続けたのは、ひとつには、それが複雑な生態学的問題を説得力のある形で示していたからである。しかし、やや微妙な別の理由もあった。原始の米国を再現するという同報告書のビジョンが、人々のロマンチックな愛国心に訴えかけ、いわば「新世界」の情景——未開墾地としての国立公園の姿——を夢想させたのだ。国立公園局は、このビジョンを取り入れ、それを国民に示したいと考えた。それは、国立公園の存在そのものの根拠となる最も奥深い文化的理由、すなわち、常に国立公園に対する国民の支持の基礎となってきたロマンチックな愛国心をうまく衝いていた。高い山々と広大な未開墾地から成るそのフロンティアの風景の名残は、国の起源と運命を表す強力な地理的象徴なのである。

レオポルト報告書は、管理慣行の一部を変えようとする同局の生物学者たちの取り組みを後押しした。研究に基づいた火災管理慣行によって、山火事の影響を見積もる試みが行われるようになった。公園管理者たちはまた、殺虫剤散布プログラムを打ち切り、在来の捕食動物の保護を拡大した。そして、特に有害な外来種の個体数を減らそうとする一方で、姿を消した外来種を再導入した。

国立公園の自然資源管理は、「原生自然保存制度法」(1964年)や「絶滅の危機に瀕する種の保存に関する法律」(1973



© AP Images/The Daily Inter Lake, Jennifer Demonte

モンタナ州のグレイシャー国立公園に咲くベアグラス。ベアグラスは、ロッキー山脈地域原産の植物である。クマは春になるとこの植物を食べ、巣穴の中で巣材としても利用する。数十年にわたって行われている管理慣行では、繊細な植物や昆虫類からそびえたつ峰や山に至るまでの、公園の環境を構成するあらゆる要素の保護に努めている。

年)の制定など、連邦議会の取り組みからも恩恵を受けた。これらの法律やその他の法律、特に「国家環境政策法」(1969年)は、国立公園の管理を改善し、公園計画への国民の関与も含め、国立公園局の慣行に対する監視の目を大幅に強化する一助となった。

しかし、レオポルド報告書や全米科学アカデミーの報告書も含め、1960～70年代の環境保護運動は、自然の美しい外観の維持を優先する同局の従来の姿勢を大きく改めさせるには至らなかった。健全な生態学的管理に不可欠な研究プログラムの拡大を繰り返し求める声は、環境保護団体を越えた国立公園局や連邦議会、国民からの十分な支持を得ることができなかつたのである。

「ナチュラル・リソース・チャレンジ」

20世紀後半になり、地球温暖化や人口増加、生息地の破壊などの脅威が高まる中、生物多様性の世界的な減少に伴い、国立公園を生態研究の実験室であり「遺伝子プール」であると思われ、考え方により明確な焦点が当てられるようになった。科学者たち、そしてさらに幅広い層の米国国民が、国立公園は地球の生態系の健全性にとって重要である——遺伝物質の宝庫であり、自然のオアシスであり、取り返しのつかない変化や種の消失に対する防波堤である——と考えるようになったのである

1997年、私は“Preserving Nature in the National Parks : A History”を出版した。数十年間にわたる国立公園局の自然資源管理を、厳しい批判を交えながら分析したものである。これを受けて、同局は時を経ずして、「ナチュラル・リソース・チャレンジ (Natural Resource Challenge)」として知られる新しい野心的な自然資源への取り組みの計画に着手した。1999年8月に発表されたこの取り組みは、すぐに連邦議会で

超党派の支持を得たが、その支持は現在も続いている。この取り組みのもとで、科学的な自然資源管理のための資金と人員は、累積的に見て、同局史上例を見ない大幅な増加を示している。

この非常に広範な取り組みは、自然資源保護の目標を達成するため、また公園と社会の両者を改善するために、科学的知識を獲得・利用し、専門家や一般の人々に広めるものである。その具体的な要素には、公園に生息する陸生・水生の在来種の一覧作成プログラムを加速化すること、それらの在来種の状態の変化をモニターすること、絶滅の危機に瀕している個体群を保護・復元する一方で外来種を排除することなどがある。この取り組みはまた、大気と水質の監視の強化を求めている。上記をはじめとする諸目標を達成するための公園職員の育成は、国民が公園の自然資源の恩恵を享受するとともに、それについて学習しその保護に取り組む機会を増やすのと同様に、極めて重要となっている。

「ナチュラル・リソース・チャレンジ」は、国立公園の管理に新時代を開いた。国立公園における外観の管理と科学に基づく管理の間では、かつてないほど理解と連携が深まっている。重要なのは、今世紀の環境に対する脅威が次第に高まりつつある中、それらの脅威に立ち向かう上で、この取り組みが国立公園局をより良い状況に導いていることである。最後に、連邦議会と国立公園局において、そして実のところ、米国国民の共通の認識においても、国立公園の自然環境の健全性を重視するその方針は、国立公園を「将来の世代がその恩恵を享受できるように、損なうことなく」維持するという1916年の最初の法律の解釈をより広く、生態学的に見て包括的なものにする一助となっている。

本稿に述べられている意見は、必ずしも米国政府の見解あるいは政策を反映するものではない。

公園は国を変える

アルバロ・ウガルデ



Photo by Rick Stanley

オサ半島の高台からの眺め。夕焼け色に染まり始めた空の下に、古代の熱帯雨林がドゥルセ湾から太平洋まで広がっている。

1969年、生物学を学ぶコスタリカの若い学生が、国立公園制度を内側から観察するために米国を訪れた。そして1970年、彼は自国に新しく誕生する国立公園局の2人目の職員となった。40年近くにわたる公園整備の歴史を振り返り、アルバロ・ウガルデは、コスタリカの歴史は2つの異なる時代に分けることができると語る。将来の世代のために同国固有の生物多様性の保存に国民が取り組む以前の時代と、それ以後の時代である。

ウガルデはコスタリカの公園制度の創設者と考えられており、同国の国立公園局長を2度にわたって務めたほか、重要な自然保護機関の要職も務めた。1999年には、タイム誌が選ぶ今世紀の環境保全のリーダーのひとりに挙げられている。

1969年、私は数カ月にわたって米国の国立公園制度を間近で観察する機会を得た。「国立公園およびそれに相当する自然保護区に関する国際セミナー」に招待されたため、

このプログラムのもとで、私のほかにも世界中から選ばれた25人ほどが、米国内のいくつかの公園を回った。私たちは、パークレンジャー、生物学者、許可を受けて公園内でビジネス活動を行う民間業者など、国立公園制度のもとで働くさまざまな人々に会った。

私は国立公園に関わる仕事につこうと思っていたわけではない。コスタリカには国立公園局のような組織は存在しなかったからだ。ところが帰国してみると、コスタリカ議会が公園制度の創設を命じる法律を通過させていた。そこで、私はこの制度の創設初期に6カ月にわたってボランティアとして働き、その後1970年に、コスタリカ公園局の2人目の職員として雇用されたのである。

同局の最初の職員である同僚のマリオ・ボサ (Mario Boza) も、米国国立公園局が主催したこの研修旅行に参加していた。この旅行で私たち2人は、公園を管理し、運営し、訪問者を迎え、土地や自然を保護するためのシステムについての



Photo by Rick Stanley

アカコンゴウインコ（学名：Ara macao）は、コスタリカの熱帯雨林や同地域と環境の似た生息地で見られるオウム科の鳥である。この色鮮やかな鳥は、うっそうと茂る木の葉を利用して捕食動物から身を隠すため、熱帯雨林の林冠上部に巣を作る。

ビジョンを得ることができた。米国の国立公園制度は私たちがより大局的に物を見るための「窓」だったと、私はいつも考えている。

生物学者である私たちは、コスタリカの生物多様性の保護を国立公園の主な目的に据えるべきであることを承知していた。国土の狭い私たちの国——世界の陸地面積のわずか0.33%——には、地球上のすべての生物種の5%が生息している。当時、人々は生物多様性という言葉すら使っていなかったが、コスタリカに生息する多くの熱帯生物の研究は何十年も前から行われていた。私が教わったコスタリカ大学の教師たちは見識のある人たちで、生態学や進化の観念を私たちに与えてくれた。しかし一方で、コスタリカではあまりにも急速に開発が進められていた。

コスタリカを守る

そこで私たちは、国立公園を創設しコスタリカに固有のものを保存するために何をすべきかを国民に説き始めた。私たち

は、コスタリカをコスタリカとして維持しなければならない、森林もなく野生生物もない裸地化した国はコスタリカではない、と国民を諭した。将来のため、子どもたちのために何かを残し、彼らがこの国の本当の姿を知ることができるようにするために私たちがなすべきことは、公園や自然保護区をつくることである。そのメッセージを国中に行き渡らせるのは、それほど困難ではなかった。この取り組みのさらなる利点として、観光産業が発展するだろうということもあったが、それは二次的な理由だった。

コスタリカの歴史は、国立公園が創設される以前とそれ以後に分けることができるだろう。国立公園が誕生してから数年間で、コスタリカは一変した。今では、自然保護について知らないコスタリカ国民、この国の自然資源について知らないコスタリカ国民はひとりもいないし、自然保護の取り組みから恩恵を受けていないコスタリカ国民もほとんどいない。私たちは、公園や自然保護区をつくっていく過程で、国の針路を変え、国の経済を変えたのである。私たちには新しい開発のパラダイム（理論的枠組み）がある。40年前とは違う国になったのだ。

1970年まではコスタリカには自然保護区はなく、自然の豊かな場所のほとんどが採鉱や狩猟、伐採の圧力を受けていた。特に、世界中で最も美しいオサ半島のような場所で、こうした事態が起きていた。私がオサ半島をこのように呼ぶのは、この半島が信じられないほど美しく、非常に多様な生物の生息地となっているからである。オサ半島を守る取り組みを始めてから、私たちは世界の注目を集めるようになった。このた



Photo by Rick Stanley

中米に生息するグラスフロッグ。透明の皮膚を通して内臓が透けて見える。

め、今では人々がオサ半島を訪れるようになり、その経済は採鉱や伐採とは無縁のものとなった。同半島のいずれの経済活動も、自然と何らかの結びつきを持っている。

今日、コスタリカの国立公園制度が成熟していく中で、私たちは依然として問題を抱えている。公園内では狩猟が悩みの種となっており、時には山火事も問題となるが、より大きな問題は公園の外にある。近くの村で野放しの開発が行われると、ガバナンス（統治）の欠如、不十分な管理、省庁その他の公的機関の間の連携不足による影響が表れるのだ。すなわち、建物の乱立や水質汚染、下水処理の未整備といった困った事態がもたらされるのである。こうした事態は一部の国立公園のすぐ近くで起きており、迫り来る気候変動の悪影響に加えて、私たちが現在抱えている主要な問題のひとつとなっている。

地球を救う

以前、私たちは地球が窮地に陥っていることを知らなかった。今では、私たちはもう無知ではない。人類全体の行動が今や、地球温暖化や生物圏環境の悪化、種の消失や極地の氷の融解といった兆候をはじめ、地球へのさまざまな脅威をもたらしている。

コスタリカでは、洪水の頻度が増え、乾燥気候が長引くようになった。この気候の変化によって乾燥地帯が広がり、低地生態系に生息する一部の種が、今では山の上の方に移動しつつある。オオハシは以前とは異なる場所にすみ、アリも生息地を変えた。このような変化は、「生命の網」全体に広がっている。私たちは国立公園の中の生物多様性を守ろうと努めているが、こうした影響は国の至る所に見られる。コスタリカに保護地域を設けようと手を尽くしてきたものの、保護地域は依然として、より大きな環

境問題に取り囲まれた「島」にすぎないのである。

地球への脅威に対処することをこれ以上先延ばしにはできない。そんな悠長なことは許されないのだ。地球温暖化への対処を先延ばしにすることは、子どもたちにどのような地球を残そうと構わない、どのような生活環境を残そうと構わない、ということの意味する。とはいえ、楽天家の私は強く信じている。もし私たち皆——個人、家族、地域社会、政府——が行動を、今、起こせば、地球は私たちの思いにに応じてくれるのではないだろうか。そして、私たちはこの状況に打ち克つことができるのではないだろうか。

本稿の背景資料の一部は、O2 For Life Rainforest Foundationから提供されている。同財団は熱帯の自然の保護・保全に尽力しており、オサ半島の土地200ヘクタール以上を保護している。

本稿に述べられている意見は、必ずしも米国政府の見解あるいは政策を反映するものではない。

後世に残るものをつくる

クリス・バーター



私は、アカディア国立公園のトレイル・クルー（自然歩道管理隊）の監督者を務めている。トレイル・クルーは朝6時に出かけ、4時に戻ってくる。ほとんどの時間を、石を切り、運び、その石で歩道をつくる作業をして過ごす。それも、まず荷物と道具を現場まで引き上げてからのことだ。技能の習得に何年も要するきつい肉体労働だが、我々のほとんどが、何物にも代えがたい仕事だと感じている。私は、大学の夏休みにトレイル・クルーとして働き始めた。そして19年経った今もまだその仕事を続けており、この仕事がとても気に入っている。

もちろん、場所の美しさもひとつの理由だ。アカディアには、海からそそり立つ断崖絶壁の山々、静寂に包まれた森、美しい声でさえずる鳥たち、トレイルでそわそわしているシカの姿、湖を漂う水鳥などが満ち溢れている。また、この仕事そのものが与えてくれる大きな充足感もある。80年前、あるいは100年前に手作業でつくられた石段や歩道を——当時と同じ方法で、ピラミッドから現在に至るまで石工たちが目指してきたのと同じ目標を持って——修理するのだ。永く後世に残り意義を持つものをつくる、という目標を持って。

最も充足感が得られるのは、公園を訪れた人々がトレイルのことを全く意識せずに、眺めについて話したり、何か空を指さしたりしながら、我々のつくった階段を苦もなく登ったり、泥地を渡るために我々が設けた土手道を歩いたりしているのを目にする時である。このような時、私は実感するのだ。トレイルのことを意識する必要がないのは、——今、そしてこの先100年にわたって——彼らの足が置かれる場所を我々が手入れしたからだ。彼らがもっと大切なもの、例えば海からそそり立つ断崖絶壁の山々、静寂に包まれた森、美しい声でさえずる鳥たち、トレイルでそわそわしているシカの姿、湖を漂う水鳥に心を奪われることができるように——。

クリス・バーターは、メイン州にあるアカディア国立公園のトレイル・クルーの監督者である。本稿はもともと、アメリカン・パーク・ネットワークのメイン州アカディア国立公園の案内に掲載されていたものである。国立公園に関する詳しい情報はOhRanger.comを参照されたい。

米国の国立公園：年表



NPS Photo

野外活動に熱心だったセオドア・ルーズベルト大統領。1903年、イエローストーン国立公園で撮影。1906年、遺跡保存法に署名し、歴史的記念物や先史時代の建造物の保護を求める同法を成立させた。

1872

連邦議会、ワイオミングおよびモンタナ両準州(当時)の80万ヘクタール余りの土地を「国民の利益と楽しみのための公共の公園あるいは遊園地」とすることを決め、イエローストーン国立公園を創設。

1890-1916

連邦議会、さらに13カ所を景色の良い公園として認定。ワシントン州のレイナー山国立公園、カリフォルニア州のヨセミテ国立公園、コロラド州のロッキー山脈国立公園など。指定地はいずれも西部。

1906

「遺跡保存法 (Antiquities Act)」の成立に伴い、先史時代のアメリカ・インディアン遺跡を保存することの重要性が認められる。同法は、価値のある遺跡を国定記念物として宣言する包括的権限を米国大統領に与えるもので、セオドア・ルーズベルト大統領は1909年までに、18の国定記念物の指定を宣言した。

1916

連邦議会、内務省内に国立公園管理局 (National Park Service: NPS) を創設し、その管轄下で35の国立公園および国定記念物を管理する法案を可決。

1926

連邦議会、アパラチア地方のシェナンドア、グレートスモーキー山脈、マンモス・ケーブを国立公園として認定。米国東部に国立公園が設置された結果、人口の多い大都市からのアクセスが容易になり、議会内で国立公園制度への支持が増加。

1930

自然の美しさよりも歴史的な意義を重視する場所を初めて公園として認定。バージニア州のジョージ・ワシントン生誕地、1783年に英国軍が米国兵に降伏し、アメリカ革命が終結した記念の場所など。

1933

国立公園および国定記念物の管理を国立公園局に統合。陸軍省(当時)および森林局が管理していた公園や記念物も国立公園局の管轄下に。

フランクリン・D・ルーズベ



NPS Photo

1900年代初め、国立公園へはでこぼこ道を馬車で行くしか方法がなかった。当時のイエローストーンで撮影された写真。



イエローストーン国立公園にあるシルバン湖畔をめぐる自動車ツアー。初期の自動車が登場してから間もないころの写真。最初の国立公園として1872年に設置されたイエローストーンは主にワイオミング州にあり、多様な野生生物のほか、間欠泉や温泉が驚くほど多くある。

NPS Historic Photograph Collection

ルト大統領が大恐慌対策として打ち出したニューディール政策の一環として、「民間植林治水隊 (Civilian Conservation Corps: CCC)」を創設。数年のうちに、12万人の隊員が各地の国立公園で自然歩道、ロッジ、観光施設などの建設に従事。

1935

「史跡設置法 (Historic Sites Act)」の成立により、「米国国民を鼓舞しその利益に資する国家的に重要な史跡、歴史的な建物や事物を、公共の利用に供する目的として保存するための国としての政策」が策定された。この政策を実施するため、広範な権限が国立公園局に与えられた。

1936

「公園、公園道路およびレクリエーションの研究に関する法律 (Park, Parkway, and Recreation Study Act)」が成立。国立公園局に対して、連邦、州、地方自治体レベルの公園道路や施設の計画づくりを他の政府機関と共同で進める権限を与える。

1941-1945

第2次世界大戦により、公園運営資金および一般市民の公園訪問件数が激減。

1958-1962

連邦議会が「野外レクリエーション資源検討委員会 (Outdoor Recreation Resources Review Commission)」を設置。同委員会は、米国国民の野外レクリエーションに対する欲求やニーズ、国民のニーズをみとすために利用可能なレクリエーション資源、および将来にわたってそうしたニーズに対応できる政策やプログラムなどの問題を4年にわたって検討した。

1963

生物学者のA・スターカー・レポルドを中心とする諮問委員会が、国立公園局の自然資源および生物群集の管理手法の重要な変更を勧告。

1964

「原生自然保全制度法 (National Wilderness Preservation System Act)」が成立。「地球およびその生物共同体が人間によって拘束されない地域、つまり、人間自身は訪問者であってそこに居続けるわけではない地域」を保護。

1965

「土地および水保全基金法 (Land and Water Conservation Fund Act)」が成立。同法により、最終的には、連邦および州政府が公園入場料や余剰財産売却収入などを公園に適した土地を取得する費用に充てることが可能に。

1966

「国家歴史保存法 (National Historic Preservation Act)」に基づき、すべての歴史公園を国家史跡登録簿に記載し、州および連邦の保存担当当局に史跡管理の見直し権限を与える。



国立自然歩道制度および国定原生・景勝河川制度を創設する法律に署名するリンドン・ジョンソン大統領（1968）。

1968

リンドン・B・ジョンソン大統領が「国定自然歩道制度法 (National Trails System Act)」および「国定原生・景勝河川制度法 (National Wild and Scenic Rivers System Act)」に署名。前者は、都市部からでもアクセスが容易なレクリエーション向き自然歩道および遠隔地の景観に恵まれた自然歩道の創設について定めた最初の法律。後者は、「景観、レクリエーション、地質、魚類・野生生物、歴史、文化などの観点からとりわけ顕著な価値」を持つ特定の河川の保全を国の政策として定めたもの。

1970

連邦議会、「統括管理法 (General Authorities Act)」を可決。公園や記念物などを自然、歴史、レクリエーションの3分野に分け、それぞれ異なる管理手法を適用することを求めて、国立公園局の政策を成文化。

1978

「国立公園およびレクリエーション法 (National Parks and Recreation Act)」により、15カ所を国立公園制度による管理下に追加。このうち、カリフォルニア州のサンタモニカ山地国定レクリエーション地域は、険しい岩山から砂浜や岩礁海岸までを含む地形を持つ。

1980

「アラスカ国家利益土地保護法 (Alaska National Interest Lands Conservation Act)」が成立。その結果、国立公園局管轄下の土地面積は50%増加し、約2000万ヘクタールに。

1981

「公園復旧整備プログラム (Park Restoration and Improvement Program)」がスタート。既存の公園資源および施設の安定化・改善に5年間で10億ドル超を支出。

2006

ジョージ・W・ブッシュ大統領が「国立公園100周年イニシアティブ (National Park Centennial Initiative)」を発表。100周年に向けて国立公園の充実を図るため、政府および善意の寄付による基金を創設。

2016

国立公園局創設100周年

本年表は、国立公園局2005年刊行の*The National Parks: Shaping the System* (国立公園の形成) に掲載された情報に基づいて作成した。

公園はすべての米国人を結ぶ特別な場所

メアリー・A・ボーマーへのインタビュー



© AP Images/National Park Service

国立公園局長のメアリー・A・ボーマー。2006年就任、2万人の職員および14万人のボランティアの先頭に立って、約400カ所の国立公園や記念物などの管理に当たっている。

メアリー・A・ボーマーは、米国国立公園局の第17代局長。様々な公園施設で16年間勤務した後、2006年に現職に任命された。Eジャーナルとの書面によるインタビューで、米国の国立公園制度に深い愛着を感じる理由と、21世紀にふさわしい国立公園の実現に向けての局長としての抱負を語る。

質問：入植地から国家としての拡大という「米国の物語」全体の中で、国立公園局はどのような側面を象徴していると思

ますか？

ボーマー：国立公園局は、あらゆる意味で米国の物語を全面的に象徴する組織です。国立公園局は、最初の永続的入植地となったバージニア州ジェームズタウンや米国独立に向けての苦しい闘い、国家としての拡大と戦争、アメリカ先住民や少数民族の苦難など、米国の歴史と文化的な経験を今に伝えている地域や場所を管理しています。つまり、優れた業績から内輪の恥まで、国家としての成長のあらゆる側面を浮き彫りにする地域や場所を管理しているのです。

米国全土および世界中の人々が、米国の精神を反映する場所を訪れます。そして、彼らは英雄的な行為や犠牲の物語ばかりでなく、現在の我々の一部になっている悲しい物語も聞きます。

私がいつも言っているのは「我々すべてを米国人として結び付けている特別な場所がある。それが国立公園だ」ということです。

質問：その米国の物語に、あなた自身の人生はどのような1章を付け加えていると思いますか？

ボーマー：私は「自らの選択による米国人」という言葉が好きで、自分自身をそう呼ぶことに誇りを持っています。私は1977年10月28日、ワシントン州スポケーンで米国憲法に対する忠誠を誓いました。私の人生にとっても家族にとっても、非常に誇らしい瞬間でした。

私の物語は米国の物語のひとつであり、移民の物語のひとつでもあります。私の家族は、イングランドのレスターで靴下などを製造する大きな工場を営んでいました。素晴らしい両親に4人の兄弟と1人の姉とともに育てられた私はたいへん幸せでした。イングランドの田園地帯の美しい村で暮らしたことで、私は物事を保存することが好きになりました。家族は歴史的なものを保存することに本当の愛情を持っていました。

私は子供のころにも米国でも暮らしたことがあります。グランドキャニオン、ペトリファイド・フォレスト、ゴールドゲート、ラッシュモア山など多くの国立公園を訪れました。こうした旅行を通じて、米国各地の文化を目にし、経験するという、学校では得られない教育を受けました。こうした子どものころの素晴らしい経験が、米国の景観、文化、国民に対する強い情熱を



© AP Images/Elise Amendola

オクラホマ州オクラホマシティで1995年に起きた連邦政府ビル爆破事件の記念センターで、犠牲者を偲んでライトアップされた椅子。記念センターが開設された2000年、ポーマーは同施設の管理責任者だった。センターは国立公園局の関連施設だが、オクラホマシティ国立記念センター財団が所有・運営している。

私に植え付けたのです。ですから、国立公園局は世界最大の大学だと私は本当に思っています。

1990年に国立公園局に入りました。数多くの異なる公園や地域で勤務し、その間ずっと、多様で広範な公園制度全体に対する認識と理解を深めてきました。米国の建国の父たちが、自由の大義のために彼らの「生命、財産、および神聖なる名誉」をささげること誓った、フィラデルフィアの独立記念館を含む米国北東地域の管理責任者を務めた後、2006年に国立公園局長に任命されました。

これは私の話ではありません。私が言いたいのは、我々の孫たちにとっても、米国の国立公園と米国の自然・文化資源の保存の重要性は変わらないということです。私のビジョンはすべての米国人を国立公園に結びつけ、公園資源の財政的な持続可能性と保護を図ることです。

私が何を達成するにせよ、それには国立公園局のために毎日一生懸命に働いている2万人を超える男女の職員の助けが必要です。彼らが我が国の子どもたちと触れ合い、自然や科学、歴史に対する好奇心を呼び起こすのです。私にできることは、彼らが自分の任務を達成し、国に対して自らの意見を述べ

るのに必要な手段を与えることです。

質問：国立公園局が現在直面する最大の課題は何だと思いますか。

ポーマー：21世紀初頭にあたって、国立公園局はいくつかの課題を抱えています。項目別に整理して言えば次のようになります。

- ・ 米国国民の国立公園への支持を再活性化し、「米国が生んだ最高のアイデア」に対する誇りを再び高める。
- ・ 人口の変化により生じるニーズに対応する、21世紀型の国立公園制度に向けて、そのための能力を強化する。これには、新世代の幹部職員の新規採用、定着、研修、および準備が含まれる。
- ・ 国立公園に関心を持つ膨大な数の人々の考え方を聞き、今日の技術および我が国の人口動態の急激な変化を踏まえて、我々の手法の転換を図る。

国立公園局の管理者と職員は、常に、国立公園において質の高い経験を提供する努力をしています。21世紀の人々の好みや技術、人口動態の変化に遅れずに対応するため、我々は多言語の、触って確かめることのできる展示や、対象物へのア



ウェストバージニア州のハーパーズ・フェリー国定歴史公園で、パークレンジャーから祝福をうける新入りのジュニア・レンジャー。南北戦争で重要な役割を果たした19世紀の町の保存・保護という国立公園局の活動に参加する。

アクセスを容易にするための新しい手法を開発しました。また、インターネットを使った情報や絵はがき、携帯電話による案内が利用できるツアーなど、現代の技術に歩調を合わせた取り組みもしています。

我々は、インフラを整備することにより、国立公園をもっと活気のある、魅力的で感動的な場所にしなければなりません。21世紀の新世代のリーダーを採用し、教育し、育成しなければなりません。

質問：国立公園は最も愛されている国の制度のひとつだとよく言われます。しかし、遺跡の管理方法や歴史的な物語の提示方法をめぐって、紛争が起こる場合があることも確かです。こうした状況にはどのように対処しますか。

ボーマー：もちろん、世論が大きく分かれる場合もあります。その時は、公園の近くに住む人々や、協力者、観光業者との関係の再構築が必要になります。意見を聞き、学び、一般の人々や観光関係のパートナーを公園問題に加える行動をとれば、大きな意見の相違があってもその解決は可能です。ほとんどの場合、我々はこうした地域社会のパートナーとの間に素晴らしい関係を築き、誤解や意見の相違を克服することに成功しています。結局のところ、我々はみな同じことを望んでいるのです。

国立公園局での18年間を通じて、私は人をまとめるのがうまいことで知られてきました。私は2000年、(168人が死亡した)1995年のマラー連邦政府ビル爆破事件の現場につくられたオクラホマシティ国立記念センターの管理責任者でした。記念センターの開設準備段階では、あれだけの大きな悲劇の後でしたから、ご想像の通り、地域社会には極めて生々しい感情が示す人もいました。私は、すべての人々の声が反映さ

れるように、遺族、生存者、救助隊員や、連邦および地方政府と協力して問題に取り組みました。重要なのは、私が「ゴネ得狙い」と呼ぶ人たちを含めて、すべての方面の意見を聞くことです。実際、それが決定的に重要です。

質問：国立公園局に負託された権限の一部として、国立公園を将来の世代のために守ることがあります。若者が自然・歴史・文化遺産を保存することの重要性を理解する大人に成長するようにするための国立公園局の教育プログラムについて、少し説明していただけませんか。

ボーマー：国立公園局の教育プログラムは、生活を豊かにするとともに学習を促進し、公園やその他の特別な場所に対する認識を高め、それによって米国の遺産を保全することを目的にしています。我々の「教室としての公園 (Parks As Classrooms)」プログラムは、人々が科学的・歴史的・文化的なプロセスと研究についてより多くの知識を身につけられるように、多様な活動を通じて教育的な努力を拡大することを促すためにつくられました。そうすれば、人々はこの知識を、自らの個人的な意思決定や管理責任をめぐる倫理の形成に適用することが可能になるかもしれません。我々としては、展示物、映画、解説プログラムなどの活動に人々を実際に巻き込むことによって、生涯を通じての管理責任感覚を育てたいと考えています。

我々が、子どもと家族向けに「公園内」で実施している主要な教育活動に、「ジュニア・レンジャー・プログラム」があります。これは「探検し、学び、守る」ことを子どもたちに奨励するプログラムです。公園に入った子どもと家族は、彼らのために特別に作成された活動パンフレットを使って公園内を探索します。パンフレットは、その公園の物語を紹介するとともに、さもなくば見過ごしてしまいそうな公園の部分を示しています。公園を探索しながら、彼らは米国の歴史や自分たちの文化遺産、我々が共有している自然界について知識を深めます。プログラムの一部として「保護」活動もあります。毎年50万人近くのジュニア・レンジャーが、将来も訪れる公園があるように、公園内や家庭で自分たちにできることを探して実行します。

ジュニア・レンジャーのほとんどは7才から12才です。彼らが好みの公園や米国の歴史形成の舞台となった場所、自然の美しさや科学の驚異を経験できる場所と新しい形のかかわりを持つことが楽しいとだと感じてくれることを希望しています。そして、もちろん、私たちが本当にしようとしていることは、子どもたちとその家族の興味を引き起こし、自分たちの国立公園に関心を持ち、その世話をするというプロセスを始める気にさせることです。

公園でなくても公園

公園とは、一般的な英語の定義によれば、森林や花、レクリエーションのために人が歩く曲がりくねった小道などのある自然環境のことである。しかし、国立公園局が維持管理している場所の中には、この説明とまったく一致しないところがある。国立公園制度を構成する391のユニット（管理の対象に指定された公園や記念物など）の索引に目を通してみれば、戦跡、軍事公園、史跡、記念物、記念碑、河川、海岸、自然歩道などが含まれていることが分かる。もちろん、公園もある。

米国で最初の国立公園が1872年に指定されてから、すでに130年以上になる。実際、その最初の国立公園であるヨセミテは、そうした国家にとって大切な数々の場所を監督するために国立公園局が1916年に創設された時には、すでに中年期に入っていた。その後数十年、連邦政府の保護に値する場所をめぐる考え方は変化し、進化してきた。



ペンシルベニア州フィラデルフィアにある独立記念館は、ジョージ・ワシントンが1775年に「大陸軍（アメリカ植民地軍）」の総司令官に任命され、1776年に独立宣言が採択された植民地時代の建物である。同記念館は、18世紀のフィラデルフィアの歴史的中核をなす20のブロックに広がり、十数か所の歴史的建造物を含む公園の目玉的存在である。

制収用された場所を保存し、当時の状況を説明している。南北戦争期間中の1863年の重要な戦闘の舞台であったゲティスバーグ国立軍事公園も、こうした歴史公園・史跡グループのひとつである。

国立記念碑（National Memorials）は、主として過去の出来事などを記念する場所で、地理的にはそのテーマと必

記念碑や公園、史跡として公式に知られたものであれ、20に上るその他の公園区分のひとつであれ、何世代にもわたって特別の保護と保全の対象に選ばれてきた場所は、米国の価値観と将来に残したいと考える物語について多くのことを示している。

国立公園（National Parks）内には、さまざまな資源があり、そうした自然の特徴を十分に保護するのに役立つ広い土地や水域が含まれている。米国南東部のグレートスモーキー山脈と南西部のグランドキャニオンは国立公園の中でも最も人気の高い場所である。

国立記念物（National Monuments）は、全国的に見て重要な資源を少なくともひとつ保存している。アリゾナ州にあるキャニオン・デ・シェイとカサ・グランデ遺跡はともに古代人の住居跡であり、国立記念物に指定されている。米国建国100年を記念して1876年にフランスから米国に贈られた、ニューヨーク港の自由の女神像も国立記念物である。

国立歴史公園（National Historic Parks）と国立史跡（National Historic Sites）は、米国の運命がかつて良くも悪くも展開を見せた場所であり、軍事公園や戦跡を含む場合もある。独立歴史記念公園は、英国に対して反乱を起こしたアメリカの入植者たちが、独立宣言案を起草したペンシルベニア州フィラデルフィアの建物やその他の歴史の舞台を含む。カリフォルニア州東部のマンザナール国立史跡は、第2次大戦中に日系米国人が強



チカマウガおよびチャタヌーガ国立軍事公園。ジョージア、テネシー両州の境にあり、南北戦争の帰趨を決める1863年の重要な戦いが行われた場所を記念する。1890年、陸軍省（当時）の管轄下で、米国初の軍事公園として設立された。1933年、国立公園局に移管。国立公園制度の下にある24の戦跡・軍事公園のひとつ。

ミシガン州のピクチャード・ロックス国立湖岸近くのスペリオール湖でカヤックをこぐ人。この公園の呼び物は、64kmにわたって湖岸線に沿って展開する絶壁、砂丘、滝、および湖水。



ずしも直接的な関係があるとは限らない。ワシントンD.C.には、第2次世界大戦や、朝鮮戦争、ベトナム戦争の記念碑がある。また、元大統領に対する敬意を表明する場所もしばしば記念碑として指定される。過去の指導者をたたえる像やその人が実際に住んでいた建物などである。

このほか、国立公園局の管轄下にある400近い場所の中には、公園道路、海岸、湖岸、河川、水路、景勝地区自然歩道、レクリエーション地域などの特別指定区分がある。

ひとつの区分として独立しているが、それに属する国立公園ユニットがひとつしかないのがウルフ・トラップ芸能国立公園である。ワシントンD.C.郊外のバージニア州北部に位置するこの公園のステージでは、さまざまなジャンルのアーティストによる100近い公演が毎年行われる。2008年夏は、ワシントン・ナショナル交響楽団、ギルバート&サリバン歌劇団、カントリー歌手のトリシャ・イヤード、ジャズギター奏者のジョージ・ベンソンなどの公演が予定されている。

パークレンジャーとスイスの山岳ガイド



アカディア国立公園で、レンジャーから海洋生物について学ぶ子どもたち (1961年)

NPS Historic Photograph Collection

国立公園局はここ数十年、公園および保護活動の開発、拡大、改善に取り組んでいる数多くの国に専門的な知識・技術を提供している。しかし、これは一方通行ではなく、米国側も国際的な連携の直接的な恩恵を受けている。例えば数十年前、現在では米国の公園を代表する呼び物のひとつとなっているものを育てるため、ヨーロッパ式の慣行を開始した。

連邦議会による1916年の国立公園局設立直後の数年間、初代局長のスティーブン・マザー (Steven Mather) は公園を訪れる人々のために自然歩道をつくり、公園の特徴を説明・解説することを考え、

そのための助言を求めることにした。彼が注目したのはカリフォルニア州の慈善家で自然保護論者のジョージ・ゴース (George Goethe) だった。

ゴース夫妻は、この時代には少数の恵まれた人々しか行くことのできなかったヨーロッパを旅行したことがあり、その時、先生の先導で学童のグループがアルプスの山道を登り、道中で花や植物、景色の説明を受けているのを目にした。ゴースは遠足が単に教育的な目的だけでないことを知った。

スイス人は、景色について教えることを、この小さな山国でともに生きようとしている多様な民族・言語集団の間で団結とその土地に対する認識を築くのに役立つ手段とみなしていた。こうした遠足で子どもたちが自分たちの国土の美しさと驚異を共有すれば、それは家族の言語や宗教が異なっても、愛国心と誇りに対する共通の感覚をはぐくむことになるというのがスイス人の考え方だった。

ゴース夫妻は、異なる背景を持つ市民の多い米国も、自然の案内人が植えつける共通の驚きの念から恩恵を受けるかもしれないと判断した。同夫妻は、カリフォルニア州とネバダ州の境にあるシエラネバダ山脈の景観に恵まれた湖、タホ湖の個人別荘地でそうした遠足を実施するため、博物学者や植物学者を募集した。

ゴース夫妻とガイドたちは1920年までに、十分な経験を積み成功を取めた。その結果として、マザー局長からヨセミテ国立公園で同様のプログラムに着手してほしいという要請を受けた。1960年の内務省のニュースリリースはゴース夫妻とともに始まった数十年にわたる成功を祝って、「ゴース博士と夫人の独創的な取り組み、熱意、および自然案内人構想に対する惜しめない支援が、国立公園を訪れる人々を案内する国立公園局のレンジャーの制服を着た博物学者、歴史学者、考古学者に象徴される今日の解説プログラムになった」と述べている。

21世紀になっても、山岳ガイドの伝統は約5000人の国立公園局ガイドという形で生き続けており、彼らは毎年公園を訪れる2億7500万人を超える人々と公園の楽しさと驚きを伝えることに努めている。

呼びかけてくる岩

ボブ・スペルホフ



「デスバレー（死の谷）」という幻想的な名前はなんと鮮烈なイメージをかき立てることか。ここを訪れるほとんどの人々は、太陽に輝く砂丘の姿を期待する。岩の下に身を隠そうと小石の間をすばやく走るとかげはその一部である。周囲の丘には開花期を控えたサボテンが点在する。これらはいずれも期待通りだろう。訪問者のほとんどが最も驚くのは、デスバレーと呼ばれる国立公園が信じがたいほどの美しさを持っていることだ。ここでは、縞目のある色とりどりの不毛の岩が、写真に撮ってくれと呼びかけてくる。遠くの山並みや白く輝く塩原（えんげん）は探索を求めている。

私と妻は、別な砂漠公園でボランティア活動した後、デスバレーを5年前に始めて訪れた。私は地質学者として、きわめて最近の地質学的過程を示す証拠があることに感動し、圧倒された。1年後、私たちは、私にとっては理想の場所であるデスバレーでボランティア活動を始めた。やがて、

有給の仕事が見つかり、この4年間この砂漠にますます夢中になっている。

私はデスバレーの地質に深い愛情を抱いており、岩の露出部分のひとつひとつに見られる込み入った結合関係を総合的に捉えようと、観察と研究を行うようになった。その結果、デスバレーとその地質は米国西部の大部分を代表するものであることが分かった。幅の広い谷間とその間にそびえる山脈は、ユタ、ネバダ、アリゾナの各州のほとんどで見られる典型的な特徴である。カリフォルニア州南部にはっきりと表れている、刻み込んだような断層線もここでは見られる。当地の地質は周辺諸州のすべての要素を備えている。

デスバレーは、米国南西部の大部分の地質学的景観を代表しているが、その一方で、その独特な美しさと複雑さが私の好奇心をそそり続ける。それがここを訪れる人々を今後末永くひきつけることを私は望んでいる。

ボブ・スペルホフは、カリフォルニア州デスバレー国立公園で解説を担当するパークレンジャーである。この記事もともと「米国公園ネットワーク」のデスバレー国立公園ガイドに掲載されたものである。より詳しい情報はOhRanger.comを参照されたい。

変化の動向

ジェフ・レニック



ユタ州のサイオン国立公園では、シャトルバスが導入され、マイカーは公園内の道路からほとんど姿を消した。その結果、大気中に排出される温室効果ガスは1万4000トン以上減った。シャトルバスは、野生生物の生息環境の改善、騒音の減少、安全性の向上などの効果をもたらした。

が現実のものになり、ウェンツラーが言う「直ちに行動しなければならないという本当の切迫感」が生まれた。そうした切迫感をもたらした結果のひとつが、米国環境保護局と国立公園局が共同で創設した「気候に優しい公園 (Climate Friendly Parks : CFP)」プログラムである。CFPには3の目標がある。すなわち、気候変動問題に関する国立公園スタッフの研修、国立公園自らの環境足跡の評価・監視・軽減に対する支援、および気候変動が公園に及ぼす影響を訪れる人々を示し、その解決にどのように関与

グレイシャー国立公園の名前の由来である氷河の規模は、米国地質調査所の調査によれば、100年余り前の3分の1になっている。エバーグレイズ国立公園の淡水湿地帯は、近くのフロリダ湾からの海水の侵入の脅威にさらされている。気候変動は国立公園制度にとって現実の問題であり、炭素排出量削減のための包括的な対策が始まっている。

ジェフ・レニックは、ウィスコンシン州ノースウッズにあるコンサーブ・スクール (Conserve School) の教師である。本記事は、国立公園保全協会の出版物のひとつであるNational Parksの2007年秋季版に掲載された原文の短縮版である。同協会は米国の公園の保護および充実を目的とする民間非営利組織である。

グレートスモーキー山脈におけるスモッグの増加を始め、水鳥の繁殖に必要な草原のくぼ地の喪失など、国立公園制度の下にある地域の中で気候変動の影響を受けていないところはない。国立公園保全協会が進める大気汚染防止プログラムのディレクター、マーク・ウェンツラー (Mark Wenzler) は「我々はこれまでで最大の課題に直面している。我々が国立公園と呼ぶ場所の骨組み自体が脅かされている」と言う。そうした課題

NPS Photo

できるかを説明することである。公園側はCFPに関するワークショップの開催、行動計画の作成、「気候に優しい公園」実現に向けての進捗状況の継続的な監視・評価を求められる。これまでに、デラウェア・ウォーター・ギャップ、エバングレイズ、グレーシャー・ベイ、ヨセミテ、サイオンを含む10の国立公園がワークショップを開催し、計画が進行中のところも多い。CFPプログラムのコーディネーターのひとりであるショーン・ノートンは、この取り組みは我々の公園に対する新たなビジョンを示すものだという。完璧なCFPとはどのようなものかとの問いに、ノートンは夢想家のような熱意を込めて語る。

「完璧な気候に優しい公園は、何よりもまず、カーボン・ニュートラルで、大気中への排出物の量を増やすことがない」とノートンは言う。公園を訪れた人は、遊歩道の地図と通行証とともに、持続可能な慣行に関する情報を与えられる。汚染物質を排出する多数の自家用車が限られた駐車スペースに殺到することから起こる渋滞はなく、代替エネルギー利用のシャトル交通システムに乗り、公園内の行きたい場所へ迅速かつ静かに、排出物を出さずに移動できる。ビジターセンター（案内所）は、その土地の原生植物の「緑の屋根」を含む、自然利用の建築・造園方法でつくられているため、ほとんど目に見えないほど自然に背景に溶け込んでいる。太陽や風力、地熱エネルギー、LED（発光ダイオード）技術、自然採光をうまく生かしたクリーンエネルギー施設である。軽食堂で買う食べ物には有機栽培の地元産食材が使われている。土産品店で売られている手工芸品は、ガラスやアルミニウムなどの再利用材で作られている。洗面所は、節水のため、水の使用量の少ないトイレや自動的に閉まる蛇口を備えており、毒性のない洗浄剤を使って清潔な状態を保っている。公園を巡回するレンジャーの車は有害な汚染物質を排出しない。離れた場所にある建物は光起電性パネルを使ってエネルギーを自給している。また、園内にはこれらの取り組みすべてについて説明する表示があり、公園を訪れた人たちが自分の環境足跡を公園でも家に帰ってから減らすのに役立つ情報を提供している。

このビジョンは単なる未来の夢物語ではない。「このビジョンの多くが実現する日はそれほど遠くない」とノートンは言う。「我々はエネルギー使用量を大幅に減らすことができる。排出物を大幅に減らすことも可能だ。現代の技術を使えば、水の消費量も大幅に減らすことができる。積極的に取り組めば、我々はこうしたことをすべての公園で10年以内に実現できる。まだ始まったばかりだが、多くの公園が毎日取り組みを強めている」

そうした公園のひとつにユタ州のサイオン国立公園がある。同国立公園では、2000年、プロパンガスを燃料とする30台のバスを使ったシャトル交通システムの導入により、1日5000台近くに上るマイカーを締め出した結果、さもなければ年間1万4000トン近くに達したであろう温室効果ガスの排出をなくした。新設の「環境に優しい」ビジターセンターは必要なエネルギーの30%を太陽熱でまかない、照明全体の80%に自然採光を利用している。また、夏の間、低エネルギーの空調を提供する大規模な冷却塔や、気温が下がる時期にはトロンプ壁（日干しレンガや石材など熱を吸収する材料を使って太陽の方を向くように作られた壁）による受動的な太陽熱暖房システムを備え、それが特色になっている。この新ビジターセンターは、国立公園建設のひとつのモデルとされ、エネルギー消費を75%近く削減し、毎年30万ポンド（13万5000キロ）以上の温室効果ガスの排出を食い止めている。

比較的目に付きにくいのが、環境に優しい建築材料や毒性のない清掃用品の利用が増え、公園内でのリサイクルも大幅に増えている。サイオン国立公園の管理責任者を務めるジョック・ウィットワースによれば、「気候に優しい公園」構想により、公園における環境管理システムの優先分野を特定しながら、環境管理や気候変動に対応することが可能になったという。「気候変動が公園の自然・文化資源に及ぼす影響についての理解が深まり、可能な問題解決法を特定できるようになった」とウィットワースは言う。

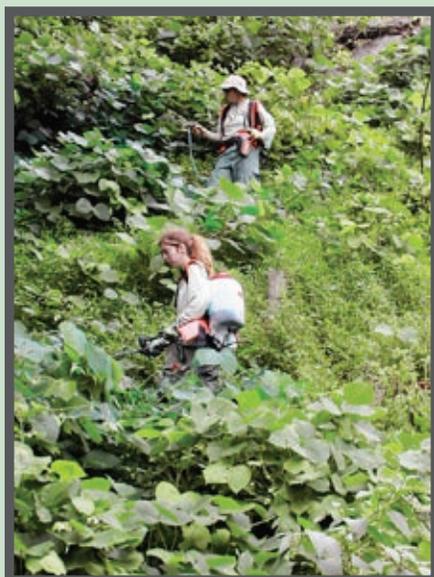
米国の国立公園には変化が起こり始めている。それは確かなことだ。ただ、その変化がどのようなものか、公園のスタッフ、訪問者、および公園自体がこの新しい現実はどう適応していくかは、それほど明確ではない。しかし、アポストル・アイランド国立湖岸の管理責任者のボブ・クルムネーカー（Bob Krumenaker）は次のように指摘する。「国立公園局で働く我々は永続的なビジネスに従事している。気候にどのような変化が起ころうと、我々の公園は存続する。世界的な気候変動が進む中で、我々の公園は原始の、手つかずの自然が残る生態学的に特筆すべき場所のひとつとしてさらに重要性を増す可能性がある」

本稿に述べられている意見は、必ずしも米国政府の見解あるいは政策を反映するものではない。

侵入生物種を撃退する

河 口水域から公有地の広大な森林や溪谷、さらにはありふれた一般家庭の庭に至るまで、植物種の侵入は、米国でもその他多くの国でも、主要な環境問題になっている。

植物種の侵入は、まったく異なる生態系の属する植物の無意識の持ち込み、あるいは意図的だが無分別な導入から始まる。外来植物は、微妙に均衡が保たれている自らの生態系によって自然に制御されることのない、新たな環境に放り込まれると、ある生態系に属する在来種を取り囲んでその成長を妨げ、ときには完全に圧倒してしまうことさえある。場合によっては、外来種の侵入により、ある生息環境に特徴的な環境条件だけに見られる在来種の生存が危機にさらされることもある。



© AP Images/Roger Alford

ケンタッキー州ミッドルズボロに近いカンバーランド・ギャップで、クズという侵入種のツタと闘う国立公園局外来植物管理チームのメンバー

善意に基づく、しかし環境的には不健全なアメリカ大陸へ種の持ち込みは、そうした行為がもたらす生物学のおよび環境的な結果が理解されるようになるずっと前の、ヨーロッパからの入植開始当初の時代にさかのぼる。国立公園における侵入種問題が十分に認識されるようになったのは、公園の生態学的管理に関する研究を主導した著名な生物学者の名を冠した「レオポルド報告書」という画期的な報告書が公表された1960年代のことだった。

国立公園局は現在、「外来植物管理チーム(EPMT)」を組織して、侵入種問題に取り組んでいる。EPMTは公園における外来植物の侵入に対処するための枠組みを提供し、初期対応に当たることを目的として設立された。EPMTは合計16チームが全米各地に配置され、それぞれ地域別に作られた国立公園ネットワークを担当して

り、その地域の植生および侵入種管理の専門家としてますます大きな役割を果たしている。また、公園における植生管理や環境法令の順守などについて公園を手助けしている。過去5年間で、EPMTは約1万4000ヘクタールの土地の管理あるいは処理にあたり、200を超える公園で作業を行い、300以上の侵入植物種の処理を行った。侵入植物の管理には、手による引き抜き、化学薬品の利用、生物学的あるいは機械的処理など様々な制御手法が使われるが、いずれの場合も、その目的は侵入植物の拡大の抑制またはその密度の低減である。

EPMTの仕事は、2万5000時間を超える自然保護ボランティアの活動によって支えられている。公有地の改良に取り組んでいる全国的な学生ボランティア組織である「学生自然保護協会」も、侵入種の抑制活動における重要なパートナーである。

国立公園局はこのほか、侵入植物種抑制のため、公園を愛する最も若い世代の協力も取り付けている。数か月前、国立公園局のメアリー・A・ボーマー局長は、ローラ・ブッシュ大統領夫人および学童のグループとともにフロリダ州のエバングレイズ国立公園を訪れた。子どもたちはフロリダ州南部でよく見られるブラジリアン・ペッパーという外来侵入種の除去を手伝った。公園滞在中、彼らは名誉ジュニア・レンジャーになり、公園職員を手助けしてこの地域原産の15本の木や灌木を植えた。

世界で最も美しい職場

スー・オコナー

私の母は、私がロッキー山脈国立公園のレンジャーだといつも友人たちに言っていた。実際のところ、私は道路整備隊で重機のオペレーターをしている。砂場で遊ぶ子どもたちが夢見るあの巨大な機械だ。しかも、道路は標高2400~3700メートルの高地にある。これらの道路は、私の一番大切な宝石のようなものだ。美しく、教育的で、刺激的で、しかもロッキー山脈分水嶺を横断している。だが、危険で、運転は難しい。私の職場は世界で最も美しいと、私はこれまでもよく言ってきた。ふだんは騒々しいが、眺めはいつも息をのむほど素晴らしく、季節ごとに変化する。

これらの道路は、周辺の環境を高く評価した何世代も前の人々によって計画され、建設された。上下左右いたるところに見られる美しい石組みは、そうした人たちがいたことの証だ。

道路を常に通行可能で安全な状態に保つのは簡単な仕事ではない。確かに心臓にはよくない。この仕事に就いてからもう何年にもなるが、母なる自然はあらゆるものを投げつけてくる。洪水、火事、雷雨、マイクロバースト（局地的な強い下降気流）、暴風雪、なだれ、天気図からはまったく予想できなかった突風、ジブラルタルと同じ大きさの雪だまりなど、冒険映画の材料になりそうなものばかりだ。

だから、私は冒険映画の中で運転しているようなものだ。あれ、ちょっと待って。フロントガラスの向こうが見えなくなった。この除雪車の横滑り止まるかな？フォレスト・キャニオンの全景が見える。脚の震えはいつ止まるのかな？

良い話もある。安全が確認されない限り、私たちは一般の人々に道路を開かない。私は舞台裏で何が行われているか皆さんに伝えたかった。もちろん、専門技術を持った同僚——中でも重要なのは整備士だが——とチームで取り組まなければ、こうしたことは何もできないし、通行可能にもならない。私が働いている西部には、まだ自然のままの荒々しさが残っている。

スー・オコナーは、コロラド州のロッキー山脈国立公園で道路整備用重機のオペレーターをしている。本稿はもともと、アメリカン・パーク・ネットワークのコロラド州ロッキー山脈国立公園の案内に掲載されていたもの。国立公園に関する詳しい情報はOhRanger.comを参照されたい。

古代人の遺産を守る

チャーリー・ポーター



© AP Images/Durango Herald, Nancy Richmond

コロラド州のメサベルデ国立公園を訪れた人たちは、12世紀末から13世紀にかけて古代プエブロ人が崖を利用して建てた住居跡を通して歩く。同公園の4000に上る考古学的遺跡は先史時代の人々が700年にわたって北米大陸に住んでいた証である。メサベルデは米国内にある世界遺産登録地のひとつでもある。

国立公園局は、古い時代の記念物の保存およびその一般への公開とともに、そうした活動に関する知識の外国との共有を図っている。

チャーリー・ポーターはEジャーナル本号の副編集長である。

米国の国立公園の顕著な特徴は、その壮大な自然景観だが、数千カ所に及ぶ先史時代の遺跡も国立公園制度の下にある3400万ヘクタールの土地の一部である。これらの遺跡は、ヨーロッパからの入植者が「新大陸」の発見を宣言し国家を創設するずっと前に、この地に居住していた人々の生活を思い起こさせるものである。

国立公園局は、今日のアメリカ・インディアン族の祖先によって造られた古い時代の人工物や建築を、自然がつくりだした景観や米国の「建国の父たち」が植民地を国家として独立させる計画を練った歴史的な場所と同様に、重要視している。

連邦議会は1906年、考古学的な遺跡を国家の政策として



© AP Images/Paul Connors

1892年に米国初の考古学的保存地区に指定されたカサ・グランデ遺跡。ホホカム族インディアンによって約700年前に築かれた同遺跡は、北米大陸における先史時代の最大建造物のひとつ。1930年代に保護のための覆いが立てられた。

将来に向けて保存するための法律を制定した。実際、「遺跡保存法 (Antiquities Act)」と呼ばれるこの法律は、公園、記念物、遺跡などの管理を国立公園局に統合した1916年の法律に先立って制定されている。国立公園局の主任考古学者であるフランシス・P・マクマナモンによれば、遺跡保存法は「これらの考古学資源と史跡は保護されるべきであり、金銭的な利益や個人的な気まぐれ、あるいはその場所に何か別のものを建築する必要があるなどという理由で、利用されてはならない」という考え方を法律として定めたものである。

この法律を制定しようという機運は、入植者たちの米国南西部への移動開始に伴って、同法が成立する20～30年前から高まり始めていた。南西部にはそれより数百年前にアメリカ・インディアンが築いた日干しレンガの建物や集合住宅が散在していた。こうした建物を古い時代の文明が生んだ偉大な人工物と評価する人がいる一方で、使用可能あるいは販売可能な材料の採掘場と考える人もいた。

20世紀初頭には、植民地あるいは連邦政府と北米先住民族の間の「インディアン戦争」の記憶が生々しく残っており、ア

メリカ・インディアンは日常的な差別に苦しんでいた。こうした事実と遺跡保存法が成立した時期が一致することは「特筆すべき」ことだと、マクマナモンはEジャーナルとのインタビューで語る。

「古い時代の記念物や遺跡を保存する取り組みが行われるのと同時に、それをつくった人々の子孫はその文化が残したものを制度的に奪われていた」とマクマナモンは言う。部族グループを伝統的な居住地から移動させ、アメリカ・インディアンの遺産を子どもたちの学校教育から一掃するというのが当時の政府の一般的な政策だった。

公園における考古学

国立公園局は現在、同局が管理する記念物・公園地域内の約7万カ所の考古学的遺跡について記録をまとめている。マクマナモンの推計によれば、さらに数万あるいは数十万の遺跡が発見されるのを待っているという。数百年あるいは数千年前の遺跡の保存は、それ自体やりがいのある仕事だが、

一般の人々がそうした遺跡を見学し、理解し、評価できるようにすることも国立公園局の任務であること忘れるわけにはいかない。

マクマナモンは岩窟居住民の集落と集合住宅について、観光客などが訪れて見て回るため「もともとの建物が傷まないように石や日干しレンガの壁の一部を安定させる必要がある」と言う。そのためには、残っている日干しレンガを保護することが必要で、保存専門家は建物を最初に建てた人たちが使った材料に似た、土を基本とするモルタルと、表面に塗るしっくいを開発しなければならない。

こうした取り組みは、多くの場所で記念物や建物、像などの修復管理に当たっている専門家にも共通する課題である。マクマナモンと、彼の国立公園局の同僚である考古学者のテリー・チャイルズおよびバーバラ・リトルは、アフガニスタンの記念物管理者の一行が2007年、考古学や歴史にかかわる公園・遺跡の同局の管理慣行を見学するため米国を訪れた際、同じ専門分野の共通の課題について新たな洞察を得た。

米国の多くの記念物や歴史遺産と同様に、アフガニスタンの遺跡も砂岩や花こう岩、日干しレンガでできている可能性がある。アフガニスタンの管理者たちは、記念物の安定化を図るのに適した物質を選ぶのに必要な材料科学技術について話し合うのに意欲的だったとマクマナモンは言う。

彼はまた、情報交換を通じて、米国が長年にわたって犯してきた過ちのいくつかをアフガニスタン側が避けることができればよいと考えている。「我々は20世紀初めの安定化プロジェクトに使われた不適切なモルタルを抜き取る作業をしている。それをもっとやわらかく、もともとの日干しレンガと石を保存するのに役立つ、土を基本とするモルタルに置き換えている。この分野では、アフガニスタンの専門家も我々の現場チームと同じように学習し、同じような関心を寄せている」

地域社会の教育

アフガニスタンの専門家たちはワシントンにある記念物や史跡を訪問した後、米国国務省内にある「文化遺産センター」後援の研修プログラムに参加して、南西部の国立公園局のユニットで8週間過ごした。アフガニスタンにおける文化の保全を支援するため、2007年の研修プログラムでは地域社会との関係や公教育に関する助言も行われた。

国立公園局が管理する400近い公園、記念物、その他の場所は、環境や条件が大幅に異なる米国各地の地域コミュニティにあり、同局は長年の活動を通じて、公園幹部と地域関係者との間に緊密かつ協力的な関係を築くことが現場管理の重要な要素であることを知っている。

教育もそうした関係を築く上で重要な要素であり、公園幹部が地域社会と協力して学童や関心を寄せるグループを公園施設に呼び込むことは標準的なやり方である。「アフガニスタンから来た人々にとって、これは一種の啓示のようなものだった」とマクマナモンは言う。

「彼らがツマカコリ（17世紀末にスペイン人によって創設された伝道施設の遺跡）を訪れていた時、学童のグループが見学旅行にやってきて、レンジャーの解説を聞きながら中庭を歩き回っていた。彼らはこれを素晴らしいことだと考えた」とマクマナモンは語る。彼らのひとは同じような教育プログラムをバーミヤン渓谷にも導入したいという希望を述べた。バーミヤン渓谷の2体の巨大な石仏は2001年にタリバーンによって破壊された。しかし、同渓谷がかつてアフガン北部を走るシルクロードの重要な目印の役割を果たしたことを今に伝える証として、現在も国際的に認められた文化遺産である。

アフガニスタンからアリゾナ州まで、歴史遺産は将来のすべての世代が過去の生活や文化を理解するのに役立つ重要な手段である、とマクマナモンは言う。実際の場所、建物、そして過去の生活や出来事が生み出した事物を自分で直接経験する機会を与えられることによって、若者は過去に対する理解と認識をより一層深めるだろう。

人類全体の遺産



ペルーのマチュピチュ遺跡は、標高2000メートルを超える山頂にあり、最盛期のインカ帝国によって15世紀に建設された。1983年に世界遺産リストに加えられた。

ペンシルベニア州フィラデルフィアにある18世紀の歴史的建造物の独立記念館（インデペンデンス・ホール）と、海洋生物が群がるオーストラリアのグレート・バリア・リーフ。この2つが共有するもの何だろうか。アラスカのグレイシャー・ベイ国立公園の氷に覆われた峰々やツガ林と、カンボジアのアンコールワット遺跡の古代寺院と霊的な存在との間にはどのようなつながりがあるのだろうか。

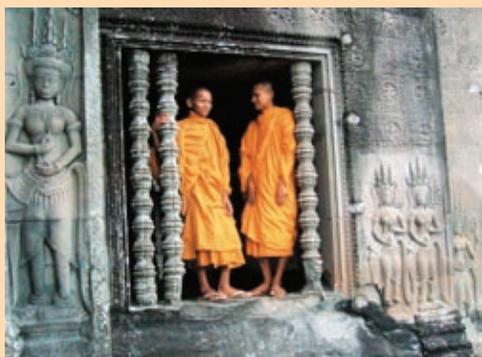
これらはいずれも世界遺産に指定されており、人類共有の自然および文化の継承という観点から際立って重要な意義を持つ場所である。世界遺産リストには現在875カ所以上が登録されている。同リストの管理は、185カ国によって承認された世界遺産条約に基づいて行われており、自然・文化遺産保護のための国際的に最も広く認められた手段となっている。

米国には世界遺産登録地が20カ所あるが、このうち17カ所が国立公園制度の一部であり、世界遺産関連事項については、国立公園局の国際部（Office of International Affairs）が米国政府に対して技術的な助言を行う。米国内の世界遺産登録地には、イエローストーン国立公園、グランドキャニオン国立公園、自由の女神像など人気の高い名所のほか、イリノイ州のカホキア墳丘州立遺跡（先史時代のアメリカ・インディアンの町）やタオス・プエブロ（15世紀以前にアナサジ族のインディアンによって建設され、現在も使われている共同住居）などそれほど知られていないものもある。

世界遺産条約のアイデアは、ニクソン政権が1971年行った提案に由来する。リチャード・ニクソン大統領は、この構想は米国で生まれた公園のコンセプトを地球規模で示したものであると説明し、同政権の環境政策に関するステートメントの中で「世界全体から見て特に価値が高く、したがって、人類全体の遺産の一部として扱われ、世界遺産基金の一部として認められるべきものがあるという原則に、世界各国は1972年までに合意することが適切であろう」と述べた。

1972年にストックホルムで開かれた国連人間環境会議で、米国代表団はこの世界遺産条約のコンセプトを提出し、同条約は、その後、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の総会で採択された。

ストックホルムの会議では、ニクソン政権で「環境の質に関する諮問委員会」の委員長を務めたラッセル・E・トレインが米国を代表して提案を行い、ユネスコの主導による同条約の創設に重要な役割を果たした。トレインは、世界



© AP Images/Suzanne Plunkett

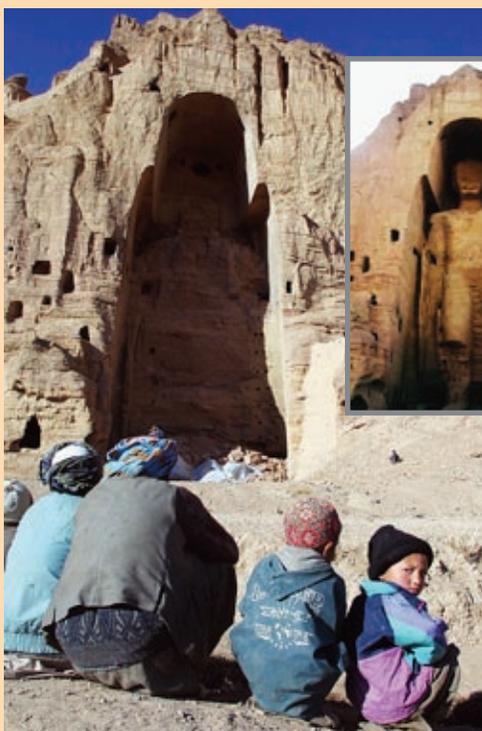
カンボジアのシムレアブ郊外にあるアンコールワットの仏教僧。アンコール考古学公園には、クメール帝国（9～15世紀）の異なる首都の遺跡がある。1992年に世界遺産登録。

遺産条約締結30周年にあたり、同条約は「人類と環境の間、および自然環境と人間が作り出した環境の間には、欠くことのできない相互関係があること」を認めるものと述べた。

同条約によって認められた多様で広範囲にわたる世界遺産は、人類全体の遺産と考えられるが、それを推薦した国の管理下にある。条約に加盟するに当たり、各国は世界遺産リストに登録されたたぐいまれな場所の管理者として、「その保護のために協力することは国際社会全体の義務である」ことを誓約する。

国立公園局および魚類・野生生物局、森林局など他の米国政府機関は、ガラパゴス諸島やタージマハールからロシア・カムチャッカ半島の火山まで、全世界の数百の世界遺産を保護するため、条約参加国と協力してきた。

フランスの港湾都市ボルドーの「月の港」はごく最近登録された世界遺産のひとつで、2000年にわたって文化交流をはぐくんだ、現在も人が住んでいる歴史的な都市である。韓国の「済州（チェジュ）火山島と溶岩洞窟」も2007年に世界遺産リストに加わった。世界遺産条約の文書によると、この地域には世界で最も素晴らしい溶岩洞窟系があり、火山活動の科学的理解に大きく貢献したという。



© AP Images/Brennan Linsley

アフガニスタンのパーミヤン渓谷にある石仏は（挿入写真）は世界最大の仏像だったが、2001年にタリバンにより破壊された。断崖の遺跡に彫られた大きな穴（左）は、ここにこの像を築いた文化があったことを示す証である。



© AP Images/Bob Daugherty

ハバス・クリークの水は、70メートル落下して、グランドキャニオンのふもとにあるハバスバイ先住民居住区に流れ込む。

キング牧師が立った階段の上で

マリサ・リチャードソン



軍人の家族の一員として、私は世界中を旅行した。1980年代中頃には、ワシントンD.C.の郊外で3年間暮らした。ワシントンへ行き、リンカーン記念館を訪れたときのことを鮮明に記憶している。それから早くも20年余り、朝鮮戦争戦没者慰霊碑、フランクリン・D・ルーズベルト記念公園、第2次大戦記念館がワシントンの風景に加わった。私はリンカーン記念館の階段の上に解説担当のパークレンジャーとして立っている。学童たちがマーチン・ルーサー・キング牧師の「私には夢がある」という演説を再現するのに見入っている。キング牧師が40年以上前にその演説した場所だ。子どもたちが過去と現在の間の隔たりを埋めるのに、私がささやかながら役立っていることを誇りに思う。

私は自分がこの仕事をしていることにびっくりしている。私は放送の仕事に入るつもりで、ジョージ・メイソン大学で英語とコミュニケーションを学んだ。しかし、ある夏、ワシントンのナショナル・モールと記念公園で、臨時のパークレンジャー

をしたことですべてが変わった。私は野外にいること、米国各地や世界中からやってくる人々と交流することが好きだった。訪れる人に見学プログラムを提供することは、たいへんやりがいのある仕事だ。というのも、それは彼らがこの場所に対する知的、情緒的な結びつきを形づくるのを手助けすることだから。

私の仕事で最もうれしいことは、訪れた人たちの言うことに耳を傾け、彼らから学ぶことだ。第2次大戦記念館では、戦争に従軍した人たちの経験をじかに聞き、第2次大戦に対する自分の識見を豊かにすることができる。パークレンジャーは多様な仕事をするすることができる。私はそれが好きだ。ある日、見学にきた生徒たちに対する解説をしたかと思えば、翌日は「桜祭り」の計画作りを手伝ったり、南北戦争に従軍した黒人兵の記念碑に関する解説展示のデザインを考えたり、というわけだ。私の仕事は世界で最も素晴らしい仕事だと、見学者の多くが言ってくれる。「その通りです」と私は答える。

マリサ・リチャードソンは、ワシントンD.C.にある「ナショナル・モールおよび記念公園」の解説・説明担当パークレンジャー。本稿はもともと、アメリカン・パーク・ネットワークのワシントンD.C.「ナショナル・モールおよび記念公園」の案内に掲載されていたものである。国立公園に関する詳しい情報はOhRanger.comを参照されたい。

その他の参考資料

国立公園に関する書籍・記事・ウェブサイト

BOOKS

Carr, Ethan. *Mission 66: Modernism and the National Park Dilemma.* Amherst: University of Massachusetts Press (in association with Library of American Landscape History), 2007.

Cunningham, Clay. *Yellowstone to Denali: Bears, Bison, Poachers, Thieves, and Other Characters.* Denver, CO: Outskirts Press, 2005.

Davis, Timothy, Todd A. Croteau, and Christopher H. Marston, eds. *America's National Park Roads and Parkways: Drawings From the Historic American Engineering Record.* Baltimore: Johns Hopkins University Press, 2004. (Published in cooperation with the Center for American Places, Santa Fe, New Mexico, and Staunton, Virginia.)

Duncan, Dayton. *Horatio's Drive: America's First Road Trip.* New York: Alfred A. Knopf, 2003. (Distributed by Random House.)

Harmon, David, Francis P. McManamon, and Dwight T. Pitcaithley, eds. *The Antiquities Act: A Century of American Archaeology, Historic Preservation, and Nature Conservation.* Tucson: University of Arizona Press, 2006.

Kaufman, Polly W. *National Parks and the Woman's Voice: A History.* Albuquerque: University of New Mexico Press, 2006.

Rothman, Hal K., and Sara D. Ewert, eds. *Encyclopedia of American National Parks.* Armonk, NY: M.E. Sharpe, 2004.

Saferstein, Mark J., ed. *Oh, Ranger! True Stories From Our National Parks.* New York, NY: American Park Network, 2007.

Schullery, Paul. *America's National Parks: The Spectacular Forces That Shaped Our Treasured Lands.* New York: D.K. Publishing, 2001.

Sellers, Richard W. *Preserving Nature in the National Parks: A History.* New Haven: Yale University Press, 1997.

Thompson, John M. *Our National Parks: Tours With Rangers.* Washington, DC: *National Geographic*, 2006.

U.S. National Park Service. *Honoring the Trust: Restor-*

ing Damaged Park Resources: The National Park Service Environmental Response, Damage Assessment, and Restoration Program Progress Report. Washington, DC: National Park Service, U.S. Department of the Interior, Natural Resource Program Center, Environmental Quality Division, 2005.

U.S. National Park Service. *The National Parks: Shaping the System.* Washington, DC: U.S. Department of the Interior, 2005.

Webb, Melody. *A Woman in the Great Outdoors: Adventures in the National Park Service.* Albuquerque: University of New Mexico Press, 2003.

ARTICLES

Dolesh, Richard J. "Tough Terrain." *Parks and Recreation*, vol. 39, no. 10 (October 2004): pp. 56-63.
<http://www.nrpa.org/content/default.aspx?documentId=1550>

"Places We Must Save: World Parks at Risk." *National Geographic*, vol. 210, no. 4 (October 2006).
<http://ngm.nationalgeographic.com/ngm/0610/feature2/index.html>

Tourtellot, Jonathan B., Simon Williams, and Cassandra Cartwright. "Destination Scorecard: National Parks." *National Geographic Traveler*, vol. 22, no. 5 (July/August 2005): pp. 80-92.
<http://www.nationalgeographic.com/traveler/features/nprat-ed0507/nprat-ed.html#magazinetext>

WEB SITES

American Park Network

Comprehensive source of information on national parks and public lands, including visitor guides for national parks.

<http://americanparknetwork.com/info/about-us>

The Mountain Institute

International nonprofit organization dedicated to the conservation and education of cultures, communities, and environments in the Andean, Appalachian, Himalayan, and other mountain ranges of the world.

<http://www.mountain.org>

National Parks Traveler

Webzine dedicated to coverage of the National Park System and the National Park Service.
<http://www.nationalparkstraveler.com>

UNESCO World Heritage Convention

The 1972 convention concerning the protection of the world's cultural and natural resources.
<http://whc.unesco.org>

U.S. National Park Service

A bureau of the Department of the Interior with jurisdiction over national parks, monuments, battlefields, military parks, historical parks, historic sites, lakeshores, seashores, recreation areas, scenic rivers and trails, and the White House.
<http://www.nps.gov>

YOUNG READERS

Bear, Tedrick D., and Trefoni M. Rizzi. *Teddy's Travels: America's National Parks*. Altadena, CA: TdB Press, 2006.

Beckman, Wendy Hart. *National Parks in Crisis: Debating the Issues*. Berkeley Heights, NJ: Enslow Publishers, 2004.

DeFries, Cheryl L. *Seven Natural Wonders of the United States and Canada*. Berkeley Heights, NJ: MyReportLinks.com Books, 2005.

Environmental Education Reading List

<http://www.nps.gov/learn/eereadinglist.htm>

Oh! Ranger

Web site for young visitors featuring information on state and national parks and other attractions.
<http://www.ohranger.com>

Parks With Suggested Reading Lists

<http://www.nps.gov/learn/suggestedreading.htm>

Petersen, David. *National Parks*. New York: Children's Press, 2001.

Teaching With Historic Places

Places Teach!
<http://www.nps.gov/history/NR/twhp/>

The U.S. Department of State assumes no responsibility for the content and availability of the resources listed above. All Internet links were active as of July 2008.

米国大使館 / アメリカンセンター レファレンス資料室

札幌アメリカンセンター・レファレンス資料室
〒064-0821 札幌市中央区北1条西28丁目 米国総領事館内
Tel: 011-641-3444
Fax: 011-641-0911
<http://japan.usembassy.gov/j/irc/ircj-sapporo.html>

米国大使館レファレンス資料室
〒107-8420 東京都港区赤坂1-10-5
Tel: 03-3224-5292 (レファレンスサービス)
Tel: 03-3224-5293 (来館予約)
Fax: 03-3505-4769
<http://japan.usembassy.gov/j/irc/ircj-tokyo.html>

名古屋アメリカンセンター・レファレンス資料室
〒450-0001 名古屋市中村区那古野1-47-1
名古屋国際センタービル6階
Tel: 052-581-8641
Fax: 052-561-7215
<http://japan.usembassy.gov/j/irc/ircj-nagoya.html>

関西アメリカンセンター・レファレンス資料室
〒530-8543 大阪市北区西天満2-11-5 米国総領事館ビル6階
Tel: 06-6315-5970
Fax: 06-6315-5980
<http://japan.usembassy.gov/j/irc/ircj-kansai.html>

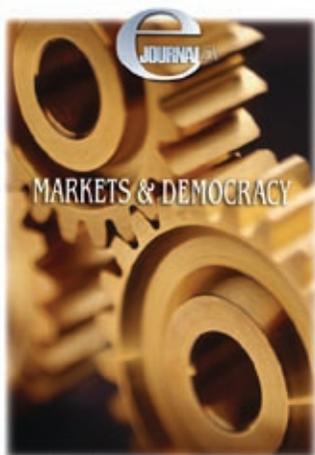
福岡アメリカン・センター・レファレンス資料室
〒810-0001 福岡市中央区天神2-2-67
Tel: 092-733-0246
Fax: 092-716-6152
<http://japan.usembassy.gov/j/irc/ircj-fukuoka.html>

編集・発行：米国大使館レファレンス資料室（2009年）



America.gov
Telling America's Story

New home of eJOURNAL USA
<http://www.america.gov>



U.S. DEPARTMENT OF STATE • BUREAU OF INTERNATIONAL INFORMATION PROGRAMS

A
MONTHLY
JOURNAL
OFFERED IN
MULTIPLE
LANGUAGES



U.S. DEPARTMENT OF STATE • BUREAU OF INTERNATIONAL INFORMATION PROGRAMS